

大山隠岐国立公園
ステップアッププログラム
2030

DAISEN・OKI　NATIONAL PARK
STEP UP PROGRAM　2030



神話と
山岳信仰が息づく
暮らしとともにある
山・島・海



大山隠岐国立公園
満喫プロジェクト地域協議会

目　次

はじめに 1
SUP2030 の主なポイント 2
SUP2030 策定の目的と位置づけ 3
1　　現状分析 6
1．1　　大山隠岐国立公園の概要 6
1．2　　大山隠岐国立公園を訪れる利用者 7
（1）大山隠岐国立公園の利用者数の推移 7
（2）国立公園利用者の概況 8
1）旅行者数の推移と動向 8
2）大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度 9
（3）外国人利用者の概況 10
1）旅行者数の推移と動向 10
2）大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度 12
（4）大山隠岐国立公園内の地域別の観光客の動向 12
1）大山・蒜山地域 12
2）島根半島東部地域 13
3）島根半島西部地域 13
4）三瓶山地域 14
5）隠岐諸島地域 14
1．3　　これまでの取組と課題 15
（1）ステップアッププログラム 2025 の取組状況 15
（2）ツアー提供数の動向 17
（3）大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025 における目標の達成状況 17
（4）大山隠岐国立公園満喫プロジェクトの実施における課題 19
2　　目標 21
2．1　　利用の推進を図る上でのテーマ（ブランディング・テーマ） 21
2．2　　ターゲットとする利用者層 21
（1）日本人利用者 21
（2）外国人利用者 21
2．3　　目標 23
2．4　　取組の方針 23
2．5　　指標 24
（1）目標Ⅰに対応する指標 24
（2）目標Ⅱに対応する指標 25
（3）地域別指標の設定 26
3　　優先的な取組 27
3．1　　国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組 27
（1）国立公園全域における優先的な取組 27

１）国立公園指定 100 周年に向けた機運の醸成と取組の継続 27
２）地域における協働、公園横断的な課題の解決に向けた取組 27
３）滞在体験の魅力向上 27
４）誘客・プロモーションの実施、民間連携 28
（２）島根県内の４地域における優先的な取組 28
１）自然環境の自然体験プログラムの充実化 28
２）誘客・情報発信の強化 28
３．２　大山蒜山三徳山地域で実施する取組 30
（１）大山蒜山三徳山地域の概要 30
（２）重点地区及び優先的な取組 30
１）大山寺及び大山山頂 30
２）奥大山・鏡ヶ成 32
３）蒜山 32
４）三徳山 34
（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組 34
１）自然環境の保全 34
２）周辺地域との連携による周遊・滞在型観光の推進 35
３）施設の整備・改修 35
３．３　隠岐地域で実施する取組 36
（１）隠岐地域の概要 36
（２）重点地区及び優先的な取組 37
１）浄土ヶ浦・大満寺山・鷲ヶ峰・国賀海岸 37
（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組 37
１）自然体験ツアーの充実化、ガイドの育成 37
２）保全・活用事業の推進 38
３）周遊･滞在型観光の推進と観光案内 38
３．４　島根半島東部地域で実施する取組 39
（１）島根半島東部地域の概要 39
（２）重点地区及び優先的な取組 40
１）五本松公園・地蔵崎園地 40
（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組 40
１）周遊ルートやツアーの充実化、ガイドの育成 40
２）施設整備・改修 41
３．５　島根半島西部地域で実施する取組 42
（１）島根半島西部地域の概要 42
（２）重点地区及び優先的な取組 43
１）日御碕及び鷺浦 43
（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組 43
１）自然・文化体験ツアー、プログラムの充実化 43
２）周辺地域との連携による滞在型観光の推進 44

３）自然景観保全のための野生鳥獣対策の推進 44
３．６　三瓶山地域で実施する取組 45
（１）三瓶山地域の概要 45
（２）重点地区及び優先的な取組 46
１）男三瓶山頂 46
（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組 46
１）自然環境の保全 46
２）体験ツアーの充実と周遊・滞在型観光の推進 46
４　進捗評価及びプログラムの改訂 48
４．１　地域協議会の体制と役割 48
４．２　大山隠岐国立公園パートナー 48
４．３　進捗評価 48
（１）取組の実施状況の評価 48
（２）目標の達成状況に係る評価 48
４．４　プログラムの改訂 49
別紙１ 50
別紙２ 52

はじめに

2016（平成 28）年 3 月、政府は、成長戦略と地方創生の柱として、観光を我が国の基幹産業へと成長させるべく、「明日の日本を支える観光ビジョン」を取りまとめた。環境省では、同ビジョンに基づき、日本の国立公園を世界水準の旅行の目的地とし、ブランド化を図る「国立公園満喫プロジェクト」を 2016 年度から推進している。

大山隠岐国立公園は、他の 7 国立公園とともに、同プロジェクトの取組を先行的、集中的に実施する国立公園として選定され、これを受けて同年 9 月に、関係行政機関や地域関係者で構成される「大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会」が設立された。地域協議会では、同年 12 月に「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020」を 2016 年度から 2020（令和 2）年度まで、また 2021（令和 3）年 2 月には「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025」を 2021 年度から 2025（令和 7）年度までのそれぞれ 5 年間を計画期間とし、具体的な取組方針を掲げるロードマップとして作成した。この間、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、取組が中断されるなどの影響があったが、今日に至るまで国立公園における魅力的な体験の提供と、保護と利用の好循環の実現に向けた取組が各地において着実に進められてきている。

本プログラムは、これまでの 10 年間の取組を礎に、「明日の日本を支える観光ビジョン」で掲げられた 2030（令和 12）年度までの政府全体の目標や、全国の国立公園における満喫プロジェクトの取組方針を踏まえ、大山隠岐国立公園がさらに魅力的に発展していくための 2030 年度までの 5 年間の取組の指針であり、具体的な行動計画である。また、大山隠岐国立公園が指定 90 周年を迎えた 2026 年に策定する計画として、次なる大きな区切りとなる指定 100 周年に向けて、地域関係者が同じ方向を向いてさらなる取組の展開をもたらすための方向性を示すものである。

大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会

SUP2030 の主なポイント

＜SUP2030 の目的と方向性＞

- SUP2030 は、これまでの 10 年間に満喫プロジェクトで築いた礎の上で、大山隠岐国立公園がさらに魅力的に発展するための方針及び行動計画である。また、国立公園の指定 90 周年に当たるタイミングで策定する計画として、来る 100 周年を見据えた方向性を示している。具体的な取組を実施していく中で、それぞれに魅力的な地域がつながり、１つの国立公園としての総合力を発揮できる枠組を構築していく。

＜SUP2030 の下での取組＞

- SUP2030 の下で、引き続きハード・ソフト両面から取組を強化し、国立公園ならではの魅力的な滞在体験を提供すると同時に、地域の自然と文化の維持・再生に貢献することで「保護と利用の好循環」の実現を目指す。その際、利用者の数を増やすだけでなく、満足度を高め滞在時間を延ばすことで、利用の質的向上と地域経済の持続性への貢献を図る。併せて、国立公園区域の内外を問わず、大山隠岐国立公園の圏域を利用者が周遊し、満足できる体験を提供する。
- 大山隠岐国立公園として共通で抱えるソフト面の課題への対処に当たっては、満喫プロジェクト地域協議会が主体的な役割を果たす。協議会として取り組む課題を特定し、地域間での学び合いや実践的なプログラムを通じ、国立公園が全体として良くなるよう改善を重ねる。
- 保護と利用の好循環をもたらす取組には、持続可能な利用の促進や地域資源への還元だけでなく、良好な自然環境を保全するための取組も含まれる。満喫プロジェクトとして実施する取組に敷居は設けず、あらゆる前向きな努力を積み重ねてさらに魅力的な国立公園を目指す。地域別の指標を設けてきめ細かく状況を把握するとともに、実施した取り組みや課題については国立公園保護管理レポートにまとめて「見える化」を図り、実施と改善のサイクルを回す。

SUP2030 策定の目的と位置づけ

大山隠岐国立公園ステップアッププログラム（以下、「SUP」）は、国立公園のブランドプロミス及び大山隠岐国立公園のブランディング・テーマ「神話と山岳信仰が息づく暮らしとともにある　山・島・海」が表す魅力を具体化し、ひいては「明日の日本を支える観光ビジョン」や「観光立国推進基本計画」で掲げられた目標の達成に貢献するためのロードマップである。多様な自然風景と生活、文化・歴史が凝縮された物語を知ることで、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる日本の国立公園の一つとして、また、大山隠岐国立公園ならではの特長を活かして、国内外からの利用者に魅力的な滞在体験を提供すると同時に、保護と利用の好循環の実現により地域の持続可能性を高めることを目的としている。また、保護と利用の好循環の実現に向けた取組を通じて、「生物多様性国家戦略 2023-2030」に掲げられた 2030 年ミッション「2030 年ネイチャーポジティブ」の実現に貢献するものである。

大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会は、大山隠岐国立公園をさらに魅力的にしていくための取組を多様な主体による協働で実施していくためのプラットフォームである。協議会は、情報共有やネットワーキングの場としてだけでなく、SUP に基づく取組を実施する協創の場としての役割を持つ。

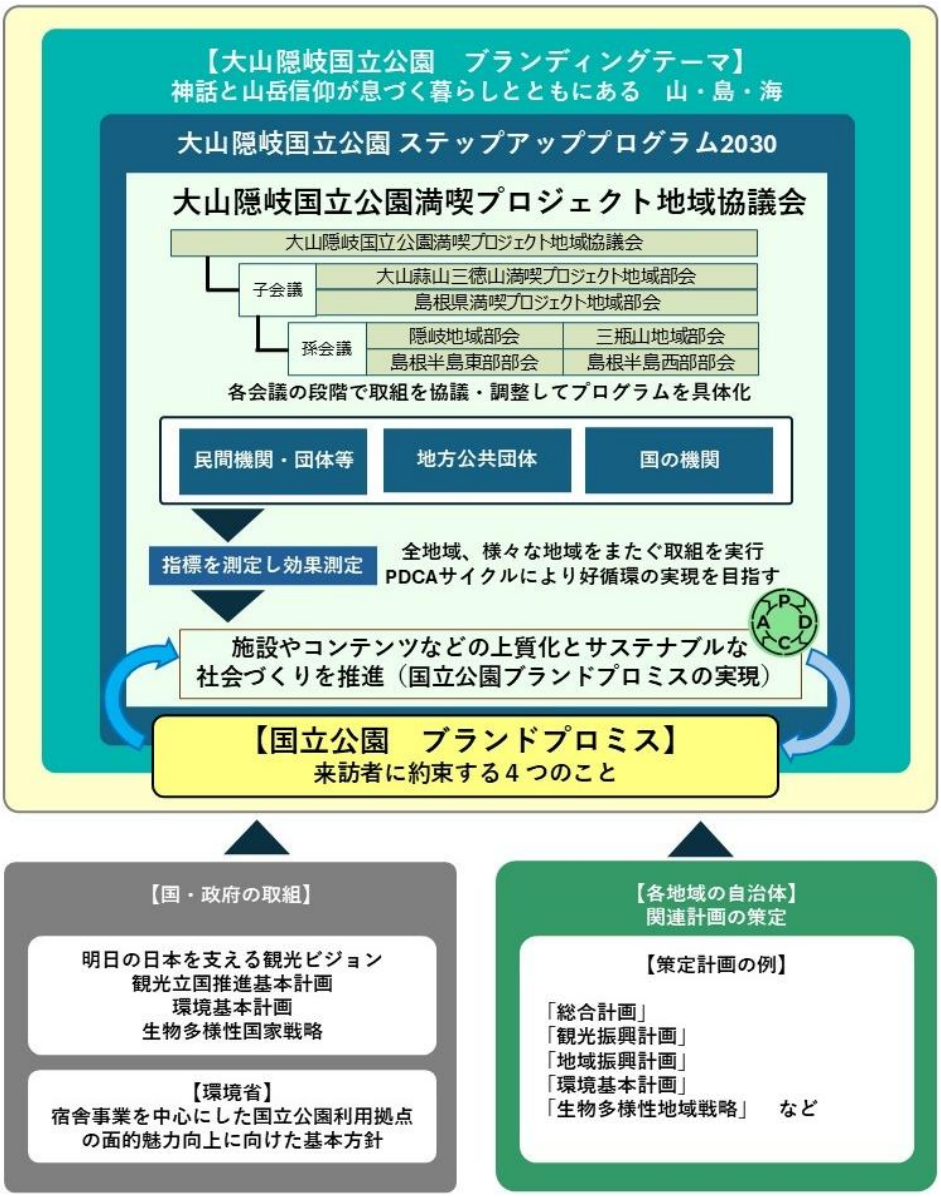
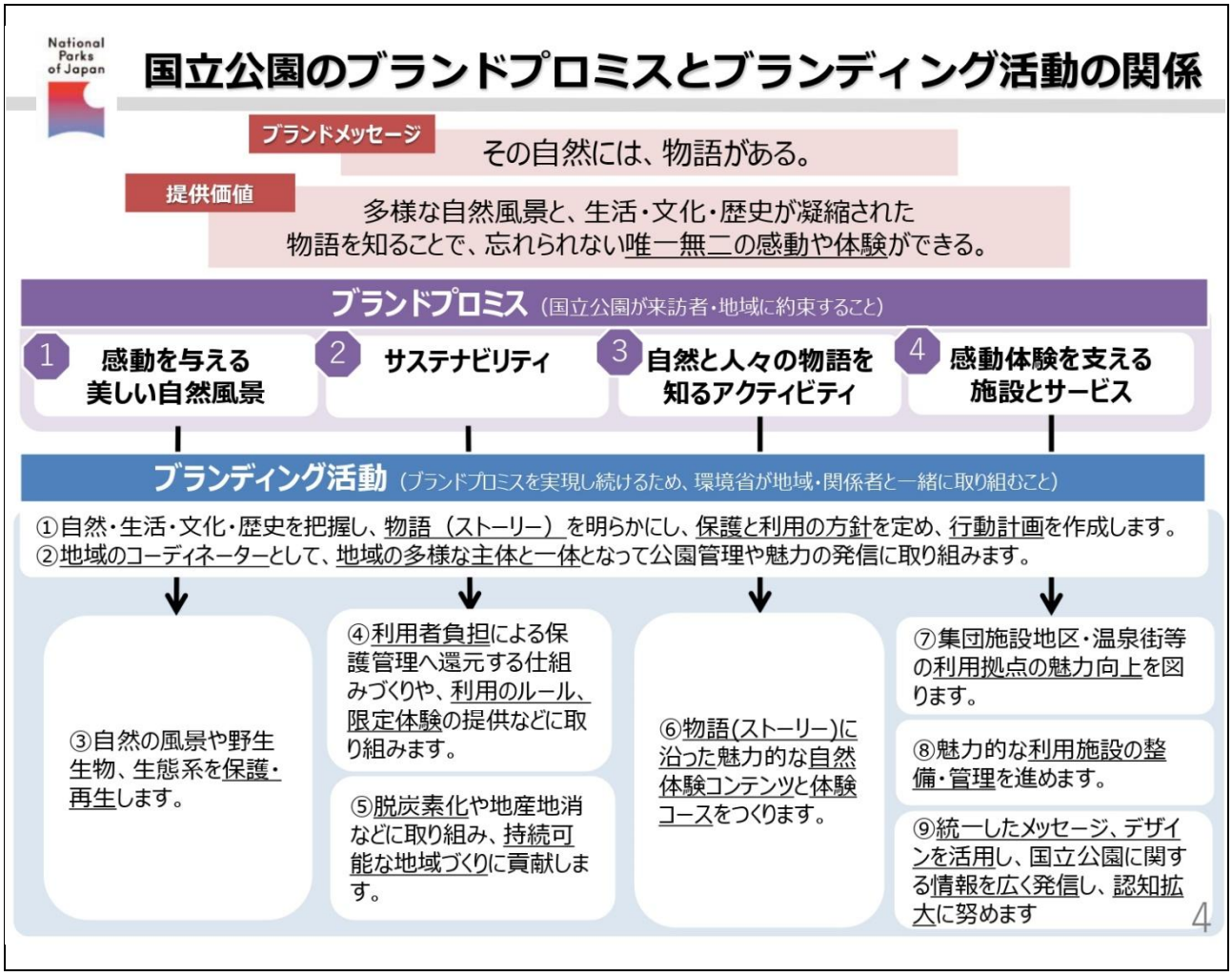


図 1　SUP2030 の位置づけ

参考：国立公園のブランドプロミスとは？

国立公園ブランドプロミスは、国立公園の管理運営に関わる関係者が共通の理解を持つための「全ての国立公園の共通の管理運営指針」に位置付けられています 。これは国立公園が来訪者や地域に対して約束する事柄であり 、「その自然には物語がある」というブランドメッセージに基づき、多様な自然風景と生活、文化・歴史が凝縮された物語を知ることで、忘れられない唯一無二の感動や体験ができることを提供価値としています 。具体的な内容としては、自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生することに加え 、公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みをつくり、脱炭素化や地産地消への取り組みを通じて持続可能な地域づくりに貢献することを目指しています 。また、物語（ストーリー）に沿った魅力的な自然体験コンテンツや体験コースを創出し 、温泉街などの利用拠点の魅力向上や施設の整備・管理を進めるとともに 、統一されたメッセージやデザインを活用して国立公園に関する情報を広く発信し、理解拡大に努めることが定義されています 。これらの活動は、環境省と地域の多様な主体が一体となって推進されます。




National Parks of Japan
国立公園のブランドプロミスとブランディング活動の関係
ブランドメッセージ
その自然には、物語がある。
提供価値
多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された
物語を知ることで、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。
ブランドプロミス（国立公園が来訪者・地域に約束すること）
1 感動を与える美しい自然風景
2 サステナビリティ
3 自然と人々の物語を知るアクティビティ
4 感動体験を支える施設とサービス
ブランディング活動（ブランドプロミスを実現し続けるため、環境省が地域・関係者と一緒に取り組むこと）
①自然・生活・文化・歴史を把握し、物語（ストーリー）を明らかにし、保護と利用の方針を定め、行動計画を作成します。
②地域のコーディネーターとして、地域の多様な主体と一体となって公園管理や魅力の発信に取り組みます。
③自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生します。
④利用者負担による保護管理へ還元する仕組みづくりや、利用のルール、限定体験の提供などに取り組みます。
⑤脱炭素化や地産地消などに取り組み、持続可能な地域づくりに貢献します。
⑥物語(ストーリー)に沿った魅力的な自然体験コンテンツと体験コースをつくります。
⑦集団施設地区・温泉街等の利用拠点の魅力向上を図ります。
⑧魅力的な利用施設の整備・管理を進めます。
⑨統一したメッセージ、デザインを活用し、国立公園に関する情報を広く発信し、認知拡大に努めます
4

1　現状分析

1．1　大山隠岐国立公園の概要

大山隠岐国立公園は、鳥取県、島根県及び岡山県の三県にまたがり、面積は陸域と海域を合わせて69,411ha に及ぶ。1936（昭和 11）年に大山地域が大山国立公園として指定され、1963（昭和 38）年に隠岐諸島、島根半島、三瓶山、蒜山地域が編入され、同時に大山隠岐国立公園へと名称が変更された。その後、2002（平成 14）年に毛無山一帯が、2014（平成 26）年に三徳山一帯が編入されている。

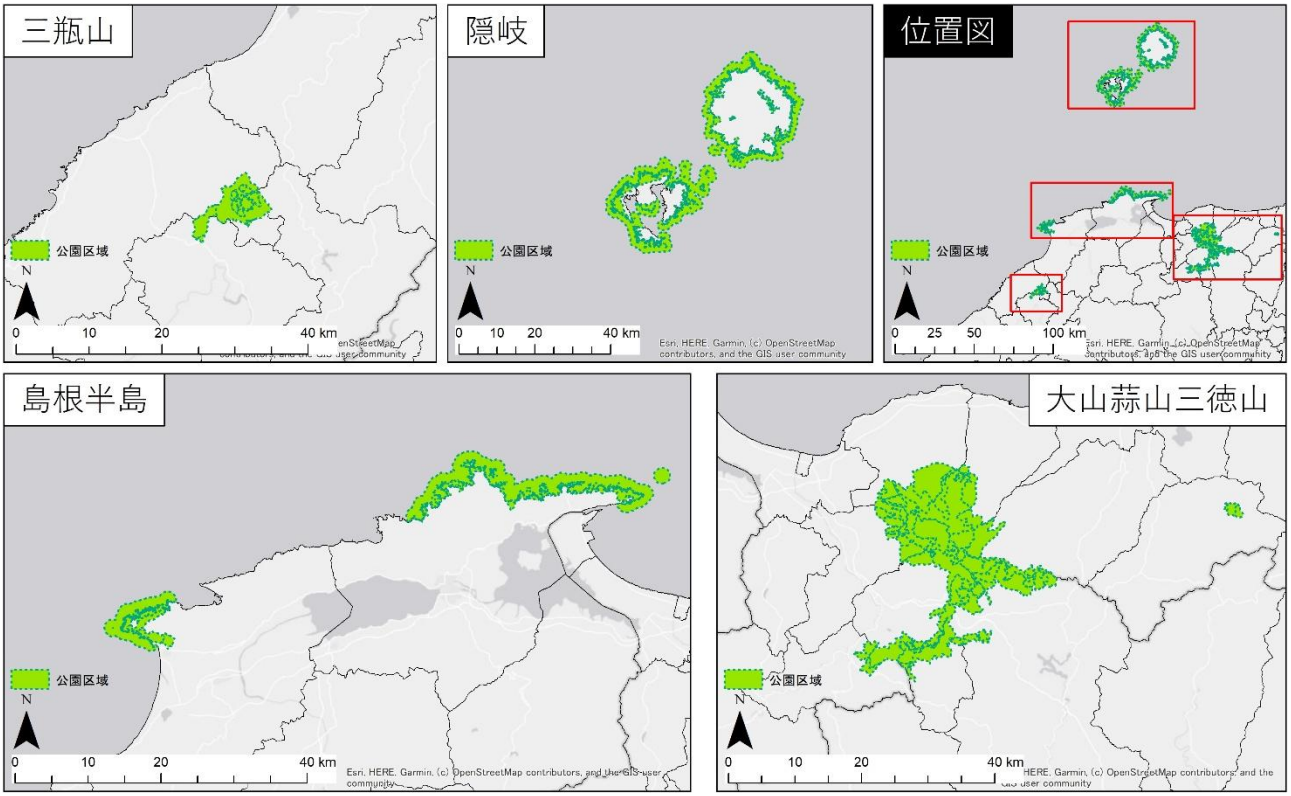


図２　大山隠岐国立公園の位置図

生物多様性センター「国立公園区域等」をもとに作成

中国地方の最高峰である大山のほか、蒜山、船上山、毛無山、三瓶山等の山地部は、火山地形、森林、草原等で構成され、それぞれの環境に適応した多様な動植物が見られる。なかでも大山は歴史上最古の神山として知られ、三徳山は山岳修行の聖地と言われている。

隠岐諸島や島根半島地域の海岸・島嶼部では、火山活動や地殻変動等の多様な要因により形成された、世界的に貴重な海岸景観が広がっている。これら隠岐諸島と島根半島地域は、それぞれ「ユネスコ世界ジオパーク」「日本ジオパーク」に認定されており、大自然と人の営みが共生する稀有な地域である。また、国立公園内には日本遺産に認定されたストーリーが複数あり、こういった取組との連携も重要となっている。

公園計画の観点では、2023（令和 5）年の第 3 次点検を経て、深い森林と信仰が一体となった「壇鏡の滝」の区域編入や、赤壁、津戸・小津久等の利用拠点における計画拡充が行われるなど、国立公園としての魅力の向上と保護体制の強化が図られている。

大山隠岐国立公園は、このように、自然と文化が融合した多彩な景観を楽しめる点が特徴となっている。これを反映して、登山、ハイキング、スキー、遊覧船からの海岸景観の鑑賞、海水浴、シーカヤッ

ク、ダイビング、キャンプ、サイクリング等の山や海での四季折々のアクティビティとともに、寺社参詣や神楽の鑑賞等の文化・歴史に触れる体験とを組み合わせた多様な利用がなされている。

また、これらの取り組みを継続的に実施するためにはその舞台となる自然環境を保全することが欠かせないことから、登山道整備や山焼きなどの保全活動を、アクティビティとして提供する取組みが始められている。


スキー


カヤック


登山


ダイビング


サイクリング


キャンプ

図３　大山隠岐国立公園内で行われるアクティビティの例

✓ コラム　国立公園の指定と保護管理

国立公園は、日本を代表する傑出した自然の風景地として、自然公園法に基づいて指定される。2026（令和８）年９月現在、全国で 35 の国立公園が指定されている。

各国立公園は、自然環境や利用状況を考慮して、特別保護地区、第１種～第３種特別地域、海域公園地区、普通地域の６つに区分けされており、各区分に応じた規制が敷かれている。特別保護地区では原生状態を保持するため行為を厳しく制限しており、他方で普通地域は規模の大きい自然改変を規制する緩衝地帯となっている。第１種～第３種特別地域はこれらの中間的な位置づけになる。国立公園の海域は大半が普通地域であるが、一部、動植物の捕獲等を規制する海域公園地区が指定されている。

大山隠岐国立公園では、陸域 35,097 ha 中、6.2%が特別保護地区、81.4%が第１種～第３種特別地域、12.4%が普通地域に指定されており、海域 33,977.6 ha 中、0.2%が海域公園地区、99.8%が普通地域に指定されている。これらの区分けは大山隠岐国立公園の公園計画において定められており、定期的に見直しが行われている。

さらに、大山蒜山三徳山地域、隠岐地域、島根半島地域及び三瓶山地域のそれぞれについて、地域の実情に即したきめ細かな管理の指針として管理計画が策定されている。

１．２　大山隠岐国立公園を訪れる利用者

（１）大山隠岐国立公園の利用者数の推移

大山隠岐国立公園の年間の利用者数は、長年 800 万～900 万人台で安定して推移してきたが、2013（平成 25）年の過去最高値（1,537 万人）を転換点として、利用者数が増加した。近年は、コロナ禍による一時的な減少を経た後に回復し、2024（令和６）年には 1,341 万人となっている。

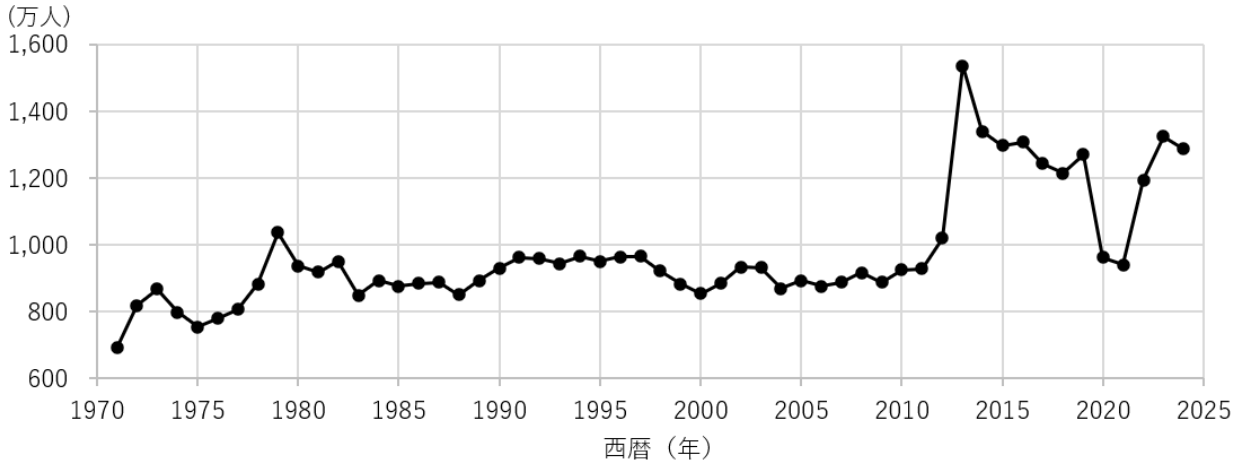


図４　大山隠岐国立公園の年間利用者数の推移（1971 - 2024 年）

環境省 自然公園等利用者数調（2024 年）をもとに作成

（２）国立公園利用者の概況

１）旅行者数の推移と動向

2019（令和元）年と 2024（令和６）年の旅行者数を比較すると、県ごとに回復の速度に違いが見られる。岡山県は回復が極めて早く、2024（令和６）年の旅行者数は日本人、外国人ともに 2019（令和元）年の水準を上回っている 。具体的には、2019（令和元）年の 5,660,680 人に対し、2024（令和６）年は 5,783,680 人（日本人 5,269,680 人、外国人 514,000 人）に達し、2019（令和元）年比で 102.2%の水準まで上昇した 。一方、鳥取県及び島根県については、2024（令和６）年時点では 2019（令和元）年の水準に達していないものの、着実な回復を見せている 。鳥取県は 2,599,290 人で 2019 年比 90.0%まで回復し、島根県は 3,444,710 人で同 94.6%まで回復している状況である。



図５　鳥取県・島根県・岡山県の旅行者数の状況

観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに作成

2024（令和６）年における各県への旅行者の居住地構成を分析すると、地理的近接性が訪問割合に強く影響していることが示された。全旅行者の平均的な居住地構成では「南関東」が 33.5%で最大となり、

「近畿」は 17.5%にとどまる。しかし、対象 3 県においては近畿エリアからの訪問割合がこの平均値を大きく上回っている。

特に岡山県においては、旅行者の 32.1%が近畿エリア居住者であり、全体の比率より 10 ポイント以上高い割合を占めている 。鳥取県（28.9%）及び島根県（24.4%）についても近畿エリアからの訪問割合が顕著に高く、これら 3 県にとって近畿圏が極めて重要な市場であることが確認できる 。また、中国エリア居住者による 3 県への旅行割合（鳥取県 14.4%、島根県 12.2%、岡山県 13.4%）も、全体の平均（4.3%）を大幅に上回っており、近隣エリアからの訪問が旅行需要の基盤となっている。

	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	サンプル数
		青森県 岩手県 秋田県	宮城県 山形県 福島県	茨城県 栃木県 群馬県	埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	新潟県 山梨県 長野県	富山県 石川県 福井県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 高知県	徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県	
2024年	3.9	2.4	3.5	4.2	33.5	3.3	2.4	11.5	17.5	4.3	2.1	11.3	(9,972)
鳥取県（2024年）	2.1	2.6	1.0	2.7	23.0	1.5	4.5	9.4	28.9	14.4	2.4	7.6	(116)
島根県（2024年）	1.0	0.8	3.8	3.7	23.1	3.6	3.4	11.1	24.4	12.2	3.4	9.5	(139)
岡山県（2024年）	2.8	1.9	1.5	2.7	21.5	3.1	1.1	7.3	32.1	13.4	4.3	8.1	(147)

【全体調査】調査対象: 全国16～79歳の男女（調査会社のパネルより抽出） 標本の大きさ: 各回50,000人 ※国勢調査時の人口（地域・性別・年代）に基づき、調査会社のモニターを割り当て
【トリップ調査】調査対象: 全国16～79歳の男女で、期間中に観光・レクリエーション旅行を実施した人（調査会社のパネルより抽出）、調査の対象とした旅行期間: 2024年1～12月

（注）1回の旅行につき、複数の旅行先（都道府県）を選択したデータを含む。表中の数値は表示単位未満で四捨五入して表示している。
全体の比率より10ポイント以上高い　　全体の比率より5ポイント以上高い

表 1　2024 年の旅行先の動向【鳥取県・島根県・岡山県】

日本交通公社「旅行年報 2025」をもとに作成

2）大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度

2025（令和 7）年の国内外利用者に対するアンケート調査結果を基に、直近 1 年間で対象 14 公園を訪問した日本人（5000 名）を対象とした大山隠岐国立公園における利用・滞在の状況を概観する。なお、公園間で調査地点の設定や回答数に差異があることから、各公園の結果を同列に比較することはできず、以下で示している 14 公園の平均値も一つの目安に過ぎないことに留意する必要がある。

大山隠岐国立公園を訪問した日本人の 2025 年における平均泊数は公園内では 1.3 泊／人であり、14 公園の平均値（1.6 泊）と比較して短い傾向がみられた。一人あたりの訪問中の支出額は 50,156 円となり、14 公園の平均値よりも約 600 円低い結果となった。利用者満足度は 60%後半から 70%後半で推移した。14 公園の平均は 2025 年に 73.1%であり、平均よりもやや高い満足度が得られている。訪問回数が 2 回目以上であるリピーターの割合は 66.9%となり前年より数値が下がるものの、14 公園の平均値を 2.3 ポイント上回った。依然として「一度訪れた人を再び呼び戻す」という定着率の高さは本公園の大きな強みであると考えられる。また、観光地域別のアンケート調査によると、大山隠岐国立公園に含まれる「蒜山高原」、「大山」、「出雲」、「隠岐」において、「まちの景観・雰囲気」や「地域の自然」、「地域での観光、活動、体験」等において、満足度が高い傾向にある。

凡例：1位 2位 3位 4位 5位 6位 7位 8位 9位 10位　　単位：%

		n=	地域の料理・食材	宿泊施設	まちの雰囲気・景観	まちの歩きやすさ	まちのにぎやかさ	地域の静けさ	地域の物産（みやげ等）	地域の自然	地域での観光、活動、体験	地域の温泉	地元の人とのふれあい	交通の利便性	地域内での
岡山県	蒜山高原	199	77%	38%	77%	55%	40%	71%	65%	88%	77%	35%	26%	39%	
	倉敷	244	75%	35%	87%	94%	79%	64%	69%	72%	73%	27%	40%	55%	
	岡山・吉備	211	67%	46%	78%	81%	68%	66%	59%	78%	69%	33%	38%	53%	
	備中高梁	110	44%	40%	81%	63%	52%	62%	45%	74%	74%	27%	38%	40%	
鳥取県	大山（鳥取県）	173	77%	42%	79%	57%	44%	69%	59%	86%	72%	43%	37%	43%	
	米子・皆生温泉	203	87%	73%	66%	47%	42%	65%	70%	75%	61%	78%	28%	36%	
	鳥取・鳥取砂丘	144	75%	56%	77%	71%	57%	64%	72%	80%	79%	61%	44%	41%	
	三朝温泉	143	84%	84%	88%	70%	51%	65%	60%	79%	69%	91%	41%	51%	
島根県	出雲	194	73%	59%	83%	76%	61%	59%	61%	82%	79%	43%	35%	40%	
	松江・しんじ湖温泉	211	81%	67%	84%	76%	56%	66%	64%	87%	75%	67%	30%	43%	
	石見銀山	57	55%	48%	83%	77%	56%	77%	45%	79%	62%	50%	48%	46%	
	津和野	93	75%	39%	94%	92%	48%	77%	50%	77%	55%	38%	31%	42%	
	隠岐	29	85%	79%	80%	56%	29%	70%	77%	84%	88%	51%	48%	23%	

表 2　大山隠岐国立公園内の旅行先の動向

JTB 地域パワーインデックス調査 2025 より作成をもとに作成

このように、強みである高いリピーター率を維持しつつ、「より深い自然体験」や「地域文化への接触」等といった上質な観光を提供することや、連泊を前提としたアクティビティや、夜間・早朝のコンテンツ拡充等により、平均泊数を伸ばしていくことが求められる。

（3）外国人利用者の概況

1）旅行者数の推移と動向

2025（令和 7）年の年間訪日外客数は 4,268 万人に達し、過去最高を記録した。年間を通じて全ての月で 2019（令和元）年の実績を上回っており、特に 9 月から 12 月にかけては 2019 年同月比で 140%を超える高い伸びを示している。中でも 10 月は 2019 年比 156%という、年間で最大の伸び率を記録した。

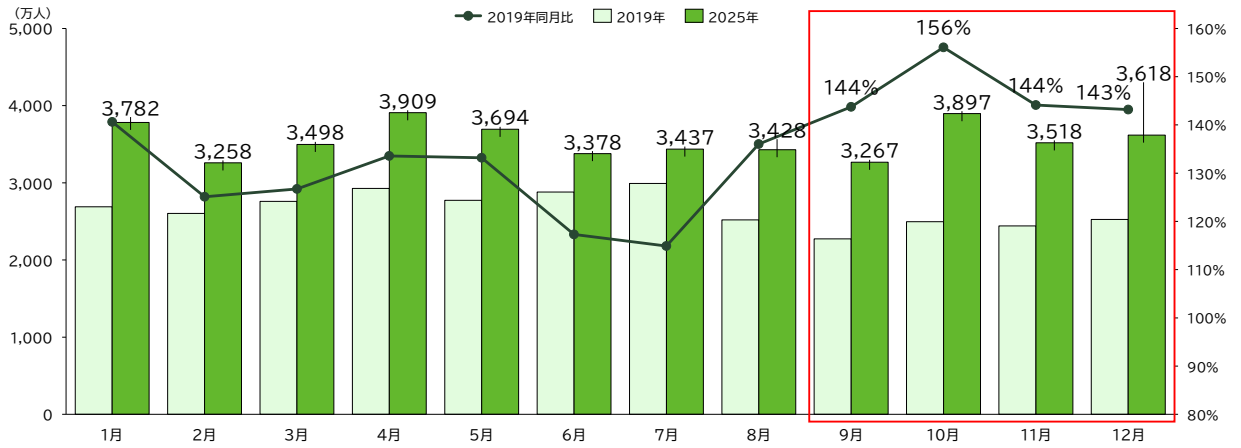


図 6　2019 年及び 2025 年における訪日外客数の季節別推移

日本政府観光局「訪日外客統計」及び各月の報道発表資料をもとに作成

鳥取県、島根県、岡山県の 3 県の動向において、2019 年以降の低迷期を経て、2025（令和 7）年には大幅な回復を記録している。観光庁の調査に基づくデータによれば、3 県合計の宿泊日数は 2019 年の 17 万人泊から、2025 年には 33 万人泊へと推移した。特に台湾からの来訪者数は、2025 年に約 33.2 万人泊に達しており、極めて大幅な回復傾向を示している 。県別の実績では岡山県が最も高く、2025 年の宿泊日数は 60.7 万人泊（速報値ベースでは 61 万人泊）を記録した 。

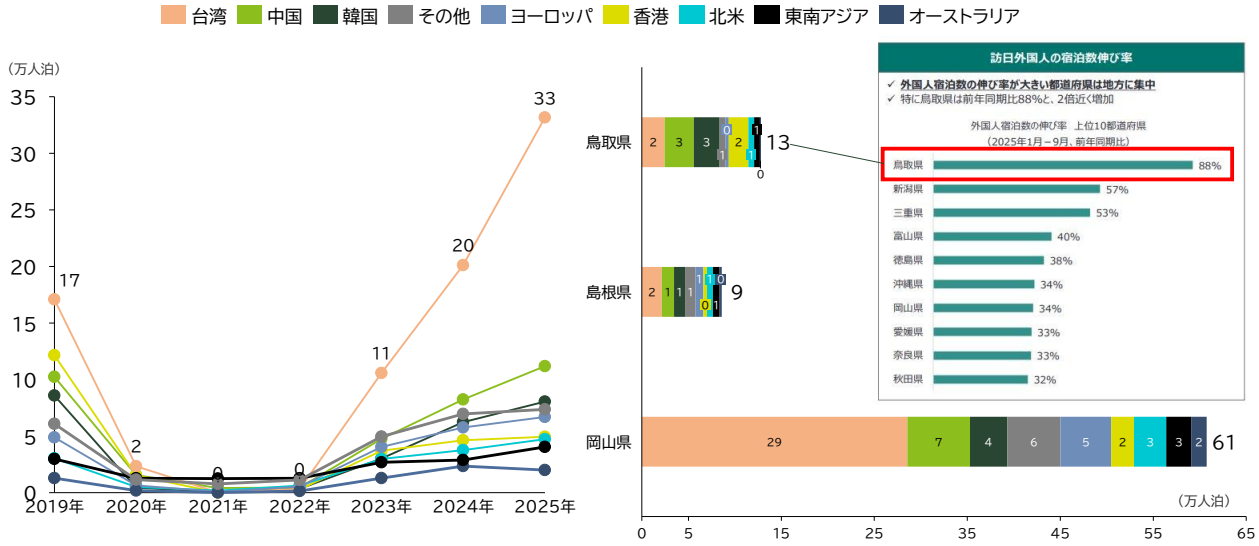


図 7　鳥取県・島根県・岡山県におけるインバウンド動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」の第 2 次速報をもとに作成

宿泊数の伸び率は、地方部の成長が顕著である。2025 年 1 月から 9 月の実績では、鳥取県が前年同期比 88%増を記録し、全国の都道府県で第 1 位の伸び率であった 。岡山県も 34%増と堅調な伸びを見せており、全国上位 10 県にランクインしている 。来訪者の国籍構成については、各県ともに韓国、台湾、香港、中国の東アジア 4 か国が主要な客層である。しかし、その内訳には地域差が生じており、鳥取県ではこれら 4 か国のシェアが 2019 年の 75.2%から 2024（令和 6）年には 80.2%へと上昇し、東アジア市場への依存が強まっている。対照的に、岡山県では市場の多角化が進展しており、東アジア 4 か国の

シェアが 66.4%から 56.9%へと低下する一方、欧米豪（ヨーロッパ、北米、オーストラリア）の割合が 16.6%から 21.7%へと 5.1 ポイント上昇しているのが特徴である。

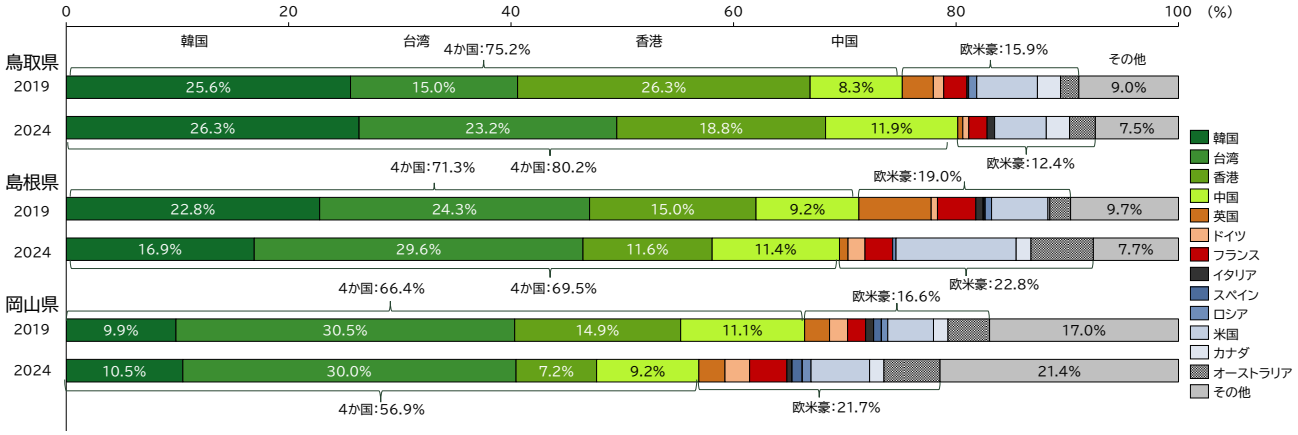


図８　鳥取県・島根県・岡山県に来訪する国籍の割合

観光庁「インバウンド消費動向調査」をもとに作成

２）大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度

日本人利用者の概況と同様に、直近 1 年間で対象 14 公園を訪問した外国人（500 名）について、大山隠岐国立公園における利用・滞在の状況を概観する。なお、公園間で調査地点の設定や回答数に差異があることから、各公園の結果を同列に比較することはできず、以下で示している 14 公園の平均値もあくまで目安としてとらえる必要があることに留意する必要がある。

2025（令和 7）年における大山隠岐国立公園を訪問した外国人の平均宿泊数は、公園内では 2.6 泊／人、14 公園の平均値は 2.7 泊／人と、わずかに短い傾向がみられた。当年の一人あたりの消費総額は 57,440 円となり、14 公園の平均値と比較して約 25,000 円低い結果となった。訪問回数が 2 回目以上であるリピーターの割合は 42.9%と、14 公園の平均値を約 1.9 ポイント上回った。満足度については、80.0%となり、14 公園の平均値よりも 4.4 ポイントを上回った。これらのことから、訪日外国人には、公園内の満足を得ているものの、訪問中の支出額が伸びないことから、今後は公園内のサービスや付加価値を向上させていく取組が不可欠であると考えられる。

（４）大山隠岐国立公園内の地域別の観光客の動向

次に、大山隠岐国立公園内の大山・蒜山、島根半島東部、島根半島西部、三瓶山、及び隠岐諸島の各地域における観光客及び国内外の宿泊客の動向について、コロナ禍前の水準（主に 2017（平成 29）年～2019（令和元）年との比較をして概観する。

１）大山・蒜山地域

大山周辺と蒜山周辺では、回復の度合いに差が見られる。大山周辺では、2024（令和 6）年の観光入込客数は、2019（令和元）年比で 7.2%減となっており、完全な回復には至っていない一方で、蒜山周辺では 2023（令和 5）年時点で 2019 年の水準をわずかに超え（2.7%増）、約 215 万人を記録した。近隣県からのマイクロツーリズム※やアウトドア需要の取り込みが奏功していると考えられる。

※マイクロツーリズムとは、３密を避け自宅から２時間程度のエリア（地元）で過ごす旅行。

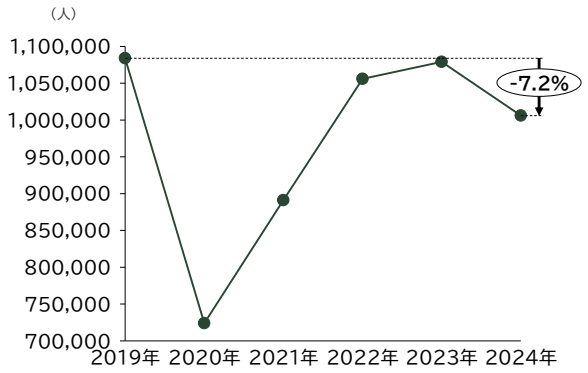


図９　観光入込客数の推移（大山周辺）

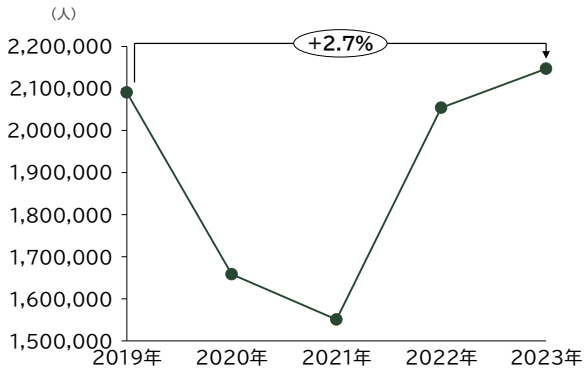


図１０　観光入込客数の推移（蒜山周辺）

令和 6 年観光客入込動態調査結果（鳥取県）、真庭地域（真庭市・新庄村）観光入込客数集計表・年間（2019 年～2023 年）をもとに作成

2）島根半島東部地域

島根半島東部（松江市）エリアの 2024（令和６）年における観光入込客数は約 873 万人であり、2019（令和元）年比で 16.5%減となっている。外国人宿泊客延べ数についても、2019 年の約 7.8 万泊に対し、2024 年は約 6.4 万泊（18.9%減）と、いずれもコロナ禍前の水準には達していない。 しかし、グラフの推移を見ると 2021（令和３）年を底として右肩上がりの回復基調にあり、主要観光地としての底堅さを示している。

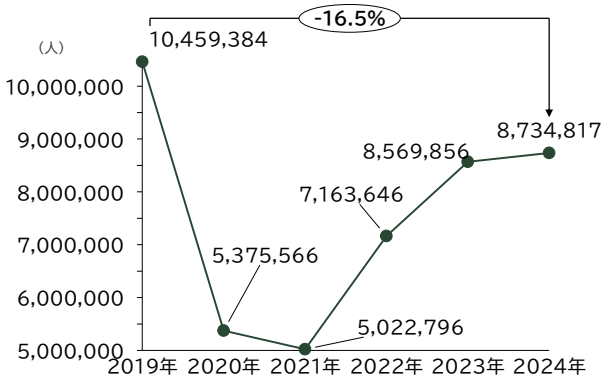


図１１　松江市　観光入込客数の推移（観光入込客数全体）

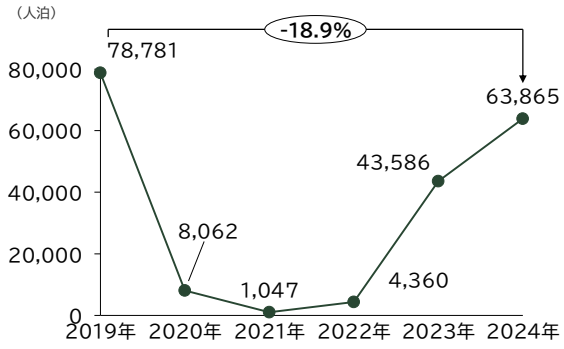


図１２　松江市　外国人宿泊客延べ数の推移（観光入込客数全体）

松江市観光動態調査（令和元年～令和 6 年度）をもとに作成

3）島根半島西部地域

島根半島西部（出雲市）エリアは、他地域と比較して回復が早い。2024（令和６）年の観光入込客数は 2019（令和元）年比で 6.2%減（約 1,172 万人）まで戻している。 特筆すべきは外国人宿泊客延べ数であり、2024 年は 11,547 人と、2019 年の 11,552 人と比較してほぼ同等の水準まで回復した。インバウンドにおいては、すでにコロナ禍前の活気を取り戻しつつあると言える。

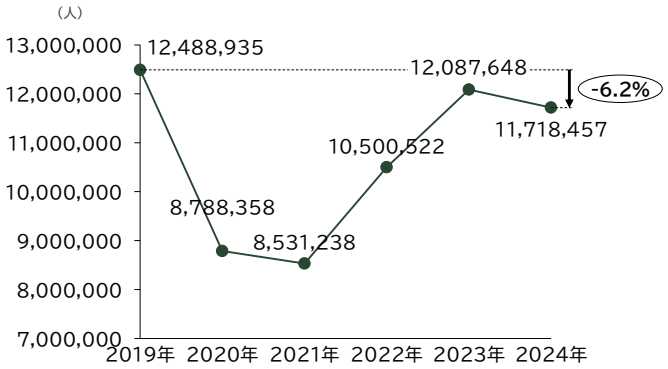


図１３　出雲市　観光入込客数の推移
（観光入込客数全体）

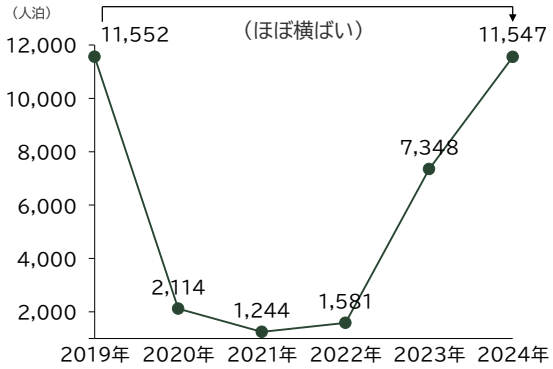


図１４　出雲市　外国人宿泊客延べ数の推移
（観光入込客数全体）

出雲市観光動態調査（令和元年～令和６年度）をもとに作成

４）三瓶山地域

三瓶山地域（大田市、飯南町、美郷町）における宿泊者数は、コロナ禍の影響を強く受けている。2024（令和６）年時点の宿泊者数は 69,458 人であり、2017（平成 29）年の 117,615 人と比較して依然として低い水準に留まっている。 特に外国人宿泊客の動向が顕著であり、ピーク時の 2018（平成 30）年には 807 人を記録したが、戻りは弱く 2024（令和６）年には 332 人に留まっている。インバウンド需要の回復は他地域と比較しても極めて緩慢であり、喫緊の課題といえる。

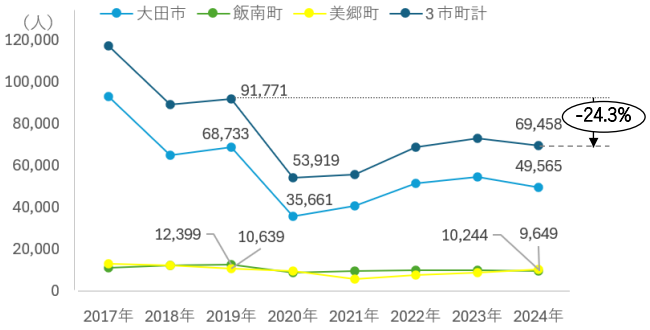


図１５　大田市（三瓶地域）、飯南町、
美郷町の宿泊者数

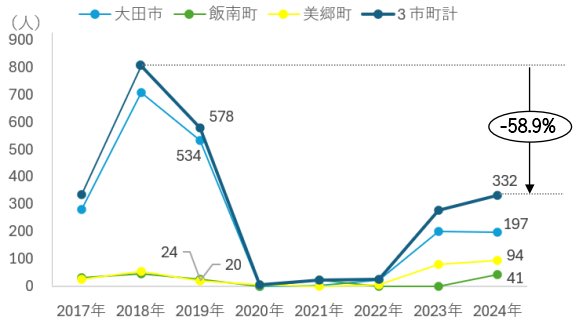


図１６　大田市（三瓶地域）、飯南町、美郷町
の外国人宿泊者数の推移

三瓶エリア観光計画 第 3 期, 第 4 期をもとに作成

５）隠岐諸島地域

隠岐諸島地域は、今回分析した地域の中で最も良好な推移を見せている。2025（令和７）年の観光客数は 54,665 人に達し、2019（令和元）年比で 4.3%増を記録した。 また、外国人観光客数については 745 人と、2019 年比で 32.1%増となり、過去最多を更新している。離島という特性を活かした観光戦略が、ポストコロナの需要と合致した結果と推察される。

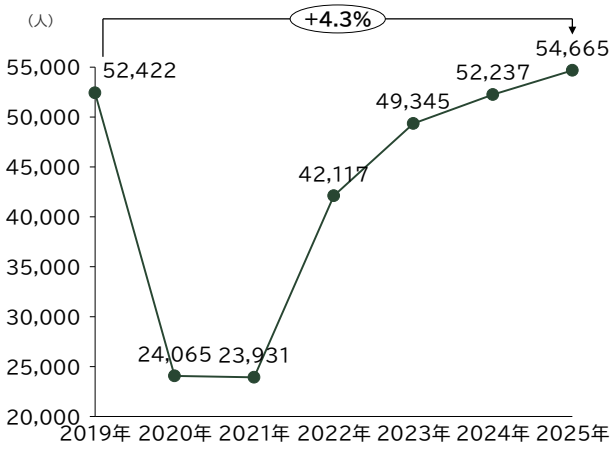


図１７　隠岐の観光客数の推移
（日本人・外国人全体）

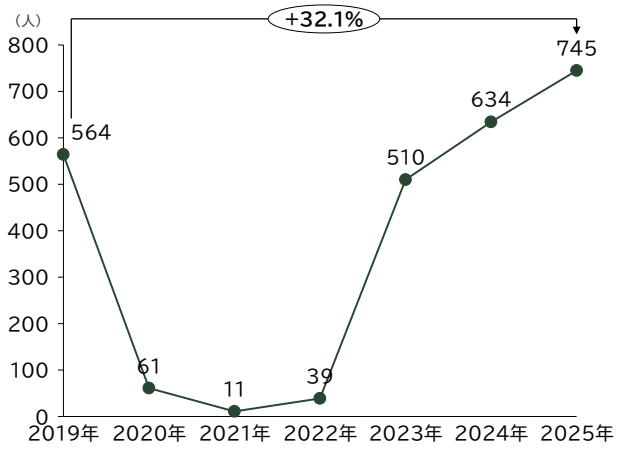


図１８　隠岐の観光客数の推移
（外国人）

隠岐観光データポータルサイトをもとに作成

全体として、観光客数は 2021（令和 3）年を底に回復傾向にあるが、その速度は地域によって大きく異なる。隠岐地域や蒜山周辺のようにコロナ禍前を超える実績を上げる地域がある一方で、三瓶山地域のように依然として厳しい状況が続くエリアも存在する。特に地域ごとのインバウンド旅行者数の回復差が顕著であり、今後は地域特性に応じた誘客戦略の再構築が求められる。

１．３ これまでの取組と課題

（１）ステップアッププログラム 2025 の取組状況

大山隠岐国立公園における 2025（令和 7）年度の取組状況について、検討段階及び実施段階に区分して整理したものである。

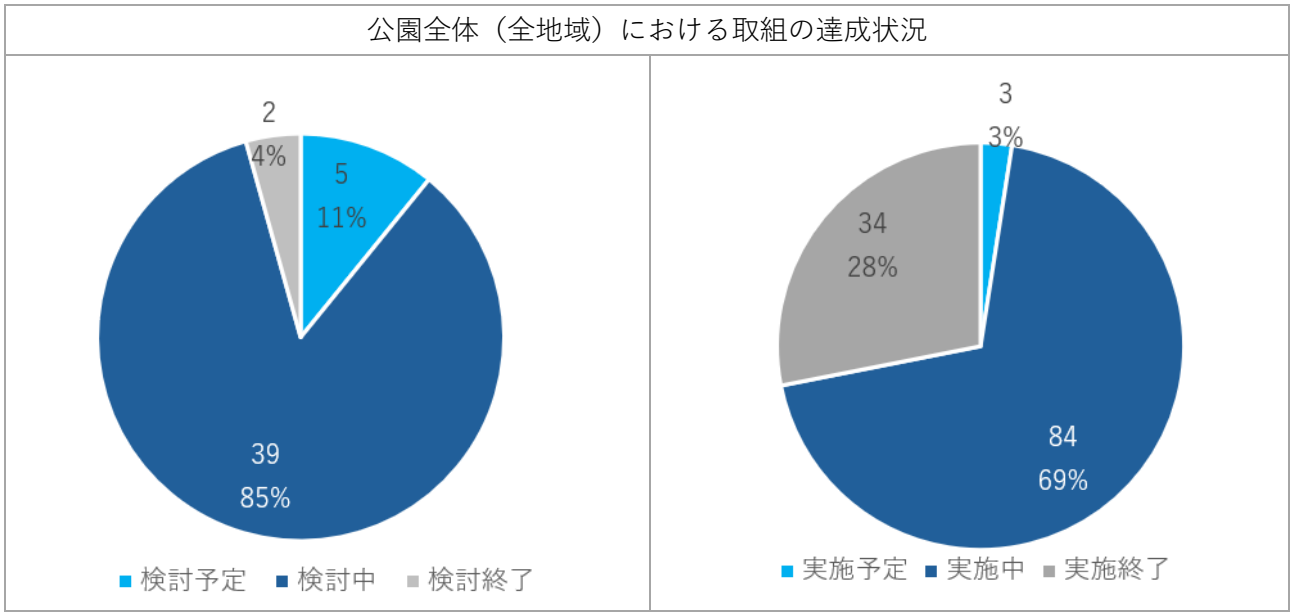
まず、全体の取組数は 167 項目であり、その内訳は、検討取組が 46 項目、実施取組が 121 項目となっている。全体の約 7 割が実施段階に移行していることから、各種施策は計画段階にとどまらず、着実に実行フェーズへ進んでいることが確認できる。

検討取組（46 項目）の内訳を見ると、検討中が 39 項目（85%）と大半を占めており、検討終了は 3 項目（7%）、検討予定は 4 項目（９%）にとどまっている。このことから、多くの取組が現在も検討過程にあり、具体化や意思決定に向けた調整が継続している段階であるといえる。

一方、実施取組（121 項目）においては、実施中が 84 項目（69%）と最も多く、実施終了（見込みを含む）は 34 項目（28%）、実施予定は 3 項目（２%）となっている。すでに多くの取組が現場で実行されている一方で、完了に至っている取組は約 3 割にとどまっており、事業の多くが継続的な対応を要する段階にあることがうかがえる。また、重点取組は 65 項目であり、そのうち検討が 16 項目、実施が 49 項目となっている。

進捗状況としては、実施中が 31%、実施中及び終了を合わせると 72.3%に達しており、重点的に位置付けられた取組については、比較的順調に実施段階へ移行していることが確認できる。一方で、実施終了は 24.6%にとどまっており、引き続き推進が必要な状況である。さらに、地域別の状況を見ると、検

討取組及び実施取組のいずれにおいても進捗には一定のばらつきが見られる。特に検討取組では、すべてが検討中の地域も存在する一方で、検討終了や検討予定が一定程度含まれる地域もあり、取組の成熟度に差があることが示唆される。また、実施取組についても、多くの地域で実施中が主であるものの、実施終了の割合には地域差が見られ、進捗速度や実施体制の違いが反映されていると考えられる。以上より、本公園における取組は、全体として「検討から実施への移行は進んでいるが、完了には至っていない進行中の段階」にあると評価できる。今後は、実施中の取組の着実な完了に向けたマネジメントの強化とともに、地域間の進捗差の要因分析及び対応が求められる。



※年度内の検討から実施に移行した取組は実施取組として集計（図中の値は例数とパーセント）

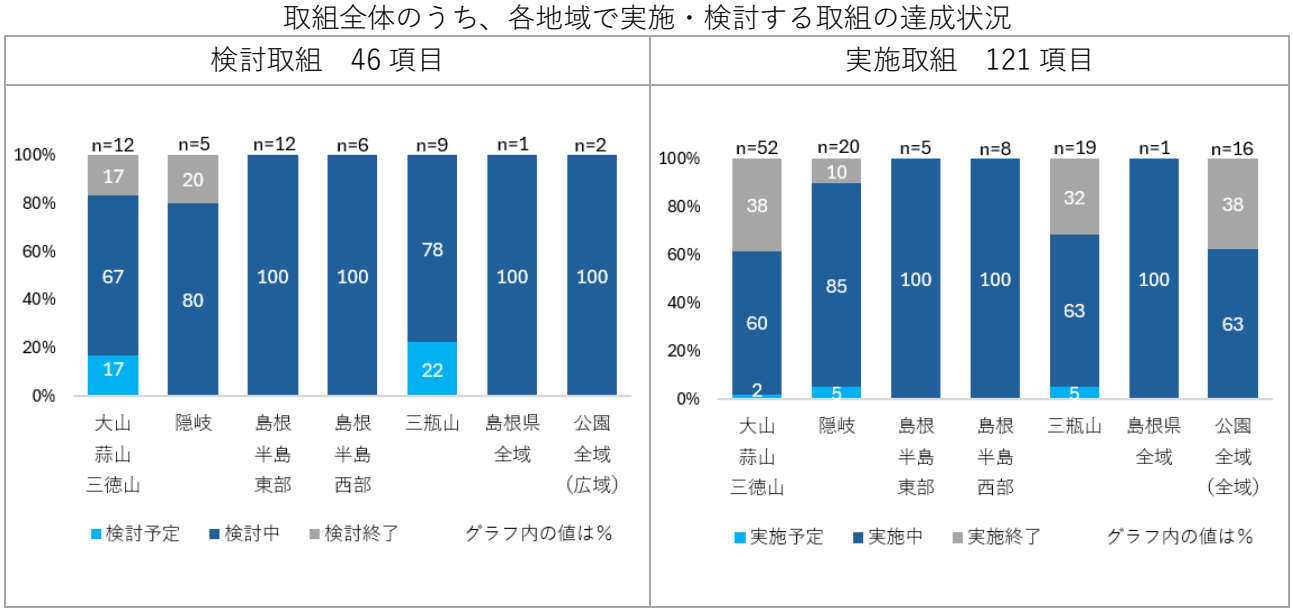


図　１９　大山隠岐国立公園の各種取組状況結果

各地域の取組状況に関する報告を集計

（2）ツアー提供数の動向

隠岐を除く各エリアにおけるツアー提供数の推移を見ると、2021（令和３）年度以降、2024（令和６）年度までは概ね横ばいで推移している。具体的には、全体の提供数は 2021 年度の 50 件から 2022（令和４）年度以降は 53 件で安定しており、大山・蒜山・三徳山、島根半島東部、西部、三瓶山の各エリアにおいても大きな増減は見られない。一方で、2025（令和 7）年度においては、全体の提供数が 43 件と前年度から減少している。エリア別に見ると、大山・蒜山・三徳山が 23 件から 21 件へ、島根半島東部が６件から３件へ、西部が 12 件から８件へ、三瓶山が 3 件から 2 件へと、それぞれ減少しており、広範なエリアで提供数の落ち込みが確認される。なお、隠岐については引き続きツアーが休止されている状況である。以上より、ツアー提供数はこれまで一定水準を維持してきたものの、直近年度においては全体的に減少傾向が見られる。特に複数エリアにまたがる減少であることから、個別要因にとどまらず、外部環境や運営体制等の影響を含めた要因分析が今後求められる。また、ツアーについては、提供数の増減だけでなく、催行状況や販売状況、継続的な提供の状況等についても把握・分析し、取組の進捗把握と改善を行っていくことが望ましい。

エリア	大山蒜山 三徳山	隠岐	島根半島 東部	島根半島 西部	三瓶山	合計	備考
2021（令和3）年度	22	9	6	10	3	50	2022年1月時点
2022（令和4）年度	23	9	6	12	3	53	2023年3月時点
2023（令和5）年度	23	9	6	12	3	53	2024年3月時点
2024（令和6）年度	23	9	6	12	3	53	2025年3月時点
2025（令和7）年度	21	9	3	8	2	43	2026年3月時点

表３　ツアー提供数の結果

各地域からの報告に基づいて作成

（3）大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025 における目標の達成状況

目標Ⅰ「自然と文化を活かした上質な観光を提供し、大山隠岐国立公園ならではの魅力を極める」

- 利用者満足度について、日本人は 66%後半から 70%後半で推移した。 2022（令和 4）年以外は全国の調査対象国立公園の平均（以下、「全体平均」）よりも、やや高かった。外国人利用者満足度は 58%から 85%まで幅があり、全体平均よりやや高い年と顕著に低い年があった。
- 公園訪問中の一人当たり消費額について、日本人は 2025（令和 7）年に 50,156 円であり、全体平均の 50,718 円と同程度の水準であった。外国人の消費額については、2025 年に 57,440 円であり、全体平均の 82,166 円よりも低かった。

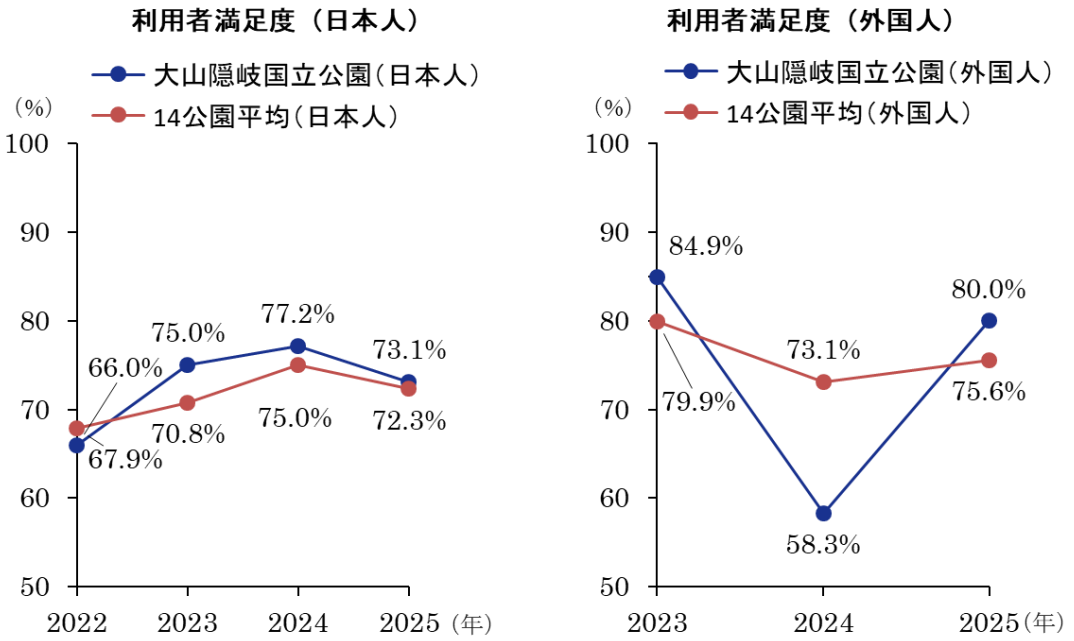


図２０　利用者満足度

令和７年度　「国立公園満喫プロジェクト」推進業務 Web モニター型アンケート調査（環境省 2025）より作成

- 平均泊数について、日本人は 1.2 から 1.6 泊だった。全体平均は 1.6 泊から 2.2 泊であり、大山隠岐国立公園は全体よりも低い値であった（期間中、調査方法に変更あり）。外国人は 2.7 から 2.8 泊であり、全体平均の 2.6 泊から 3.0 泊と同程度かやや低かった。
- リピーター率について、日本人は 67%から 71%程度で、全体平均よりも高い値で推移した。外国人 26%から 64%程度の値で推移しており、全体平均よりも高かった。

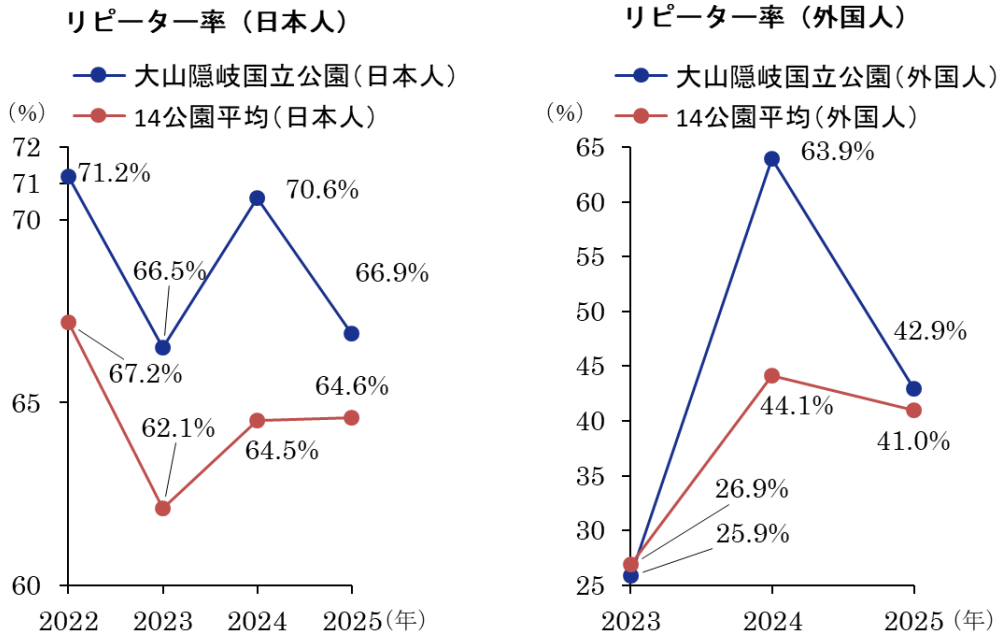


図　２１　リピーター率

令和７年度　「国立公園満喫プロジェクト」推進業務 Web モニター型アンケート調査（環境省 2025）より作成

目標Ⅱ「新型コロナウイルス感染症による影響前の水準まで国内外からの利用者数を回復させる」

- 大山隠岐国立公園関係市町村の延べ宿泊者数は 2024（令和 6）年に日本人が約 330 万人、外国人が約 10 万人となった。いずれも、コロナウイルス感染症の影響以後順調に回復しているが、影響前の水準（2019（令和元）年時点：それぞれ約 380 万人、約 15 万人）には達しなかった。
- クルーズ船等の利用者数（クルーズ船利用者のうち大山隠岐国立公園内に行く人の推計値）は、2024 年に 2,410 人と推計されコロナウイルス感染症の影響以後回復傾向がみられるが、影響前の水準（2019 年時点：4,445 人）には達しなかった。

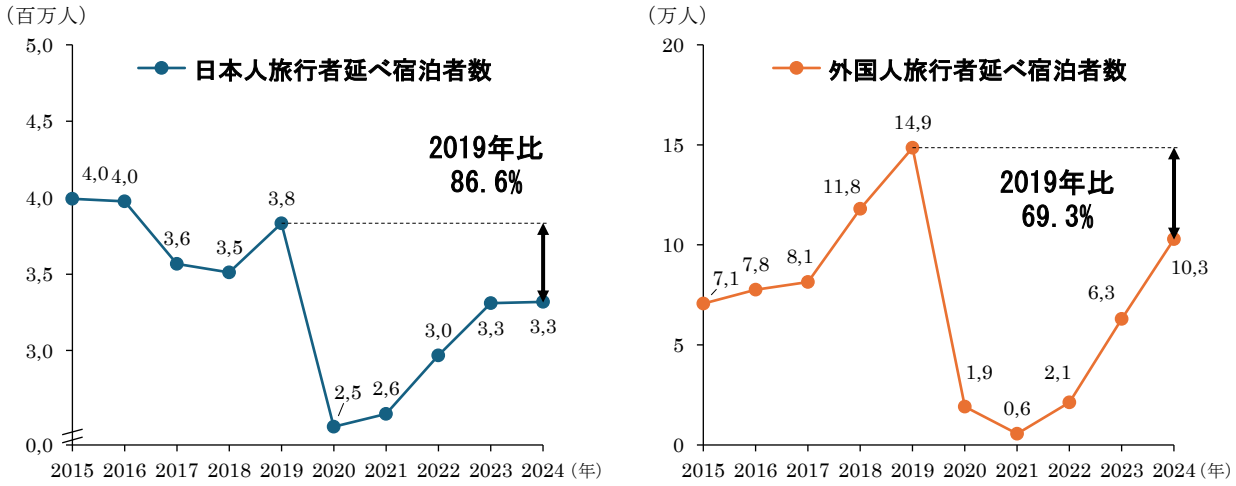


図２２　旅行者のべ宿泊者数

令和７年度 「国立公園満喫プロジェクト」推進業務 Web モニター型アンケート調査（環境省 2025）より作成

（４）大山隠岐国立公園満喫プロジェクトの実施における課題

2025（令和７）年度に大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会において、これまでの取組の振り返りを行い、以下の３点の課題を抽出し、改善の方向性を検討した。

【論点１】国立公園の魅力向上の駆動力としての SUP

- SUP2025 は、大山隠岐国立公園における取組の方向性を共有する指針として一定の役割を果たし、景観改善や施設整備、人材育成や情報発信など、具体的な事業実施の観点からも有効だった。地域関係者の意識醸成も進み、国立公園を多様な関係者で盛り上げていく機運が生まれた。
- 一方で、計画と個別事業、予算要求、評価との接続に課題も見受けられ、SUP2025 が「参照される計画」に留まっている側面も見られた。今後は、取組の方向性の共有にとどまらず、関連計画や予算とのリンクを含めて事業実施における事例や経験の共有を図り、実施と改善のサイクルを回していくことが必要だと考えられる。

【論点２】利用・保全両面から取組をけん引する主体としての地域協議会

- 地域協議会は、行政・事業者・関係機関がお互いの顔が見える関係を築き、情報共有やネットワー

ク形成を進める場として有効に機能した。

- 一方で、報告・共有が中心となり、積極的な意見交換や具体的な行動につながる議論が限定的であった点が課題である。
- 今後は、満喫プロジェクトの事業内容の共有にとどまらず、大山隠岐国立公園の魅力向上の取組を議論し、前に進めていくための主体としての協議会に発展させていく必要がある。その際、協議会としての事業を実施することも有効だと考えられる。同時に、協議会構成員に限らず、関係する機関との連携をより一層図る必要がある。

【論点３】実施、評価、改善のサイクル

- 今後の目標・指標設定においては、来訪者数など量的指標だけでなく、滞在の質や地域への波及効果を捉える視点が重要である。また、利用者の視点にとどまらず、国立公園の魅力向上のための新しい観点での指標設定も検討する必要がある。
- 大山隠岐国立公園は地域特性の幅が広く、一律の指標では実態を十分に反映できないため、エリア特性に応じた指標設定も有効と考えられる。観光動態や利用者の客層をとらえ、ターゲットを的確に設定する必要がある。

２　目標

２．１　利用の推進を図る上でのテーマ（ブランディング・テーマ）

大山隠岐国立公園が擁する多彩な資源の魅力を活用し、利用の促進を図っていく上でのテーマを、以下のとおり設定する。

神話と山岳信仰が息づく暮らしとともにある　山・島・海

大山隠岐国立公園は、中国地方最高峰の大山のほか、船上山、蒜山、三徳山、三瓶山等の山々と、ユネスコ世界ジオパークに認定されている隠岐諸島、日本ジオパークに認定されている島根半島海岸部から成る、山と島と海の国立公園である。この国立公園は、神話や山岳信仰の舞台となっており、出雲大社をはじめとする神話にまつわる名所旧跡が点在し、山岳信仰の霊場であり開山 1,300 年以上の歴史を有する大山や三徳山を擁する。伝統的な神事や祭が今もなお数多く執り行われているなど、神話や山岳信仰とともに受け継がれてきた暮らしが、山と島と海の自然風景の中に溶け込んでいる。日本の原風景と言える暮らしに触れながら、山と島と海での多彩なアウトドア・アクティビティを楽しめる点が、他の場所にはない、大山隠岐国立公園の魅力である。

２．２　ターゲットとする利用者層

大山隠岐国立公園への誘客を図る主な利用者層は、以下のとおりとする。

（１）日本人利用者

１．２（２）で示したとおり、鳥取県、島根県及び岡山県を来訪する旅行者の出発地となることの多い近畿地方及び中国地方の居住者を第一のターゲットとする。主な一次交通は、自動車、鉄道、高速バスを想定する。他の地域と比較して、来訪時の時間的・金銭的負担が軽く、大山隠岐国立公園の認知度や、リピーター率も比較的高いと考えられる。入込客数や宿泊数等の「量」を持続的に確保しつつ、滞在日数・消費額・満足度・リピーター率等の「質」の向上を図る。

さらに、従前から一定数の来訪がみられる首都圏居住者を第二のターゲットとする。主な一次交通は、空路を想定する。羽田直行便が就航する空港が周辺地域に複数存在するという大山隠岐国立公園の強みを活かし、魅力的かつアクセス性の高い旅行先として、首都圏における認知度の向上と、誘客の実現を図る。

（２）外国人利用者

東京や京都といった国内の主要な観光地を訪問した経験があり、２回目以降の中長期の滞在を通じて、さらに深く日本を知りたいと考えている訪日旅行リピーターを、主なターゲットとする。

国・地域別では、１．２（３）で示したとおり、鳥取県、島根県及び岡山県を来訪する外国人旅行者のうち構成比率の高い韓国、台湾、香港、中国、そして欧米豪諸国を主なターゲットとする。また、新たなターゲットとしては、東南アジア諸国を視野に入れる。大山隠岐国立公園内の地域間でも、来訪者の国･地域別の構成比は異なることから、必要な場合は各地域でターゲットとする国･地域を設定する。

それぞれの国・地域の人々の関心やニーズを考慮してプロモーションを実施し、大山隠岐国立公園の認知度の向上を図るとともに、受入環境整備を着実に進める。

２．３　目標

本プログラムの目標は、以下の通りとする。

Ⅰ．大山隠岐国立公園ならではの魅力を感じられる自然と文化を活かした上質な滞在体験を提供し、同時に地域の自然と文化の維持や保全・再生に貢献する。
※満足度や滞在日数など、滞在の質に関する目標。地域の自然・文化の維持・再生に貢献。

Ⅱ．国内外からの利用者数を一層増加させるとともに、地域社会の持続可能性の向上と活性化に貢献する。
※利用者数に関する目標。地域経済への貢献による地域社会の持続可能性の向上を目指す。

２．４　取組の方針

目標を達成するための取組の方針を、以下のとおり設定する。

（１）自然と調和した「持続可能な観光」の実現

大山隠岐国立公園の自然の魅力を損なうことなく、持続可能な形で自然の保全と両立する利用を推進する。利用料の一部を保全活動に還元するなど、利用者負担による保全の仕組みづくりにも取り組む。さらには、自然のみならず環境全般や社会文化、経済への影響に十分に配慮した「持続可能な観光（サステナブル ツーリズム）」を進め、生物多様性国家戦略で掲げられた「2030 年ネイチャーポジティブ」や、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献することを目指す。

（２）感動を与える体験の提供

自然を含む地域資源の四季折々の魅力を最大限引き出した国立公園ならではの体験を利用者に提供できるよう、雨天時の対応も考慮したツアー（旅行商品）開発やガイドの育成等を一層進める。また、広域にまたがる大山隠岐国立公園の見どころをより多く楽しんでもらえるよう、サイクリングロードやロングトレイル（長距離自然歩道等）も活用して、国立公園内の地域間や周辺地域と連携し、周遊を促進する。その際、関係自治体・観光協会・DMO 等がどのように連携してマネジメントしていくのかについて、連携を促進するプラットフォームなどを活用して取組を実施する。

（３）多様な利用・需要に応じたサービスの提供

外国人を含め、ファミリー層、若年層、障がい者、富裕層等の幅広い利用者層や、キャッシュレス決済の導入等の多様な需要に応じたサービスの提供を図る。これらの取組も通じ、社会情勢や利用の需要を含め市場環境の変化に強い安定的な集客を目指す。

（４）安全・安心の確保と、利便性と景観の向上

施設の整備や復旧、改修を進め、利用者の安全・安心の確保や、障害の有無や年齢、言語等の違いを問わず多くの人が利用できるユニバーサルデザイン化、国立公園にふさわしい上質なまちなみの形成を図る。

（5）戦略的な誘客・プロモーションの実施

大山隠岐国立公園の関係機関・団体のみならず、他の国立公園を含む周辺地域の機関・団体、政府観光局（JNTO）や航空会社等の全国規模の組織とも連携して、着実に本国立公園の認知度を高め、旅行者が来訪する動機と機運を醸成する。同時に、魅力的な観光地域づくりにつながるよう、地域の魅力について住民に改めて周知を図る。

2．5　指標

目標の達成度を図る指標は以下とする。なお、必要に応じて、追加的な指標を設定し参照する。

（1）目標Ⅰに対応する指標

指標	区分	対象	検証方法	実施単位
①　一人あたり消費額	継続	日本人・外国人旅行者	タイプＡ	公園全域
②　一人あたり滞在日数	継続	日本人・外国人旅行者	タイプＡ	公園全域
③　リピーター率	継続	日本人旅行者	タイプＡ	公園全域
④　利用者満足度	継続	日本人旅行者	タイプＡ	公園全域
⑤　国立公園の認知割合	新規	日本人・外国人旅行者	タイプＢ	公園全域
⑥　利用者推奨度	新規	日本人・外国人旅行者	タイプＢ	公園全域
⑦　ツアー稼働数	新規	観光関連事業者	タイプＣ	各地域
⑧　ツアー提供数	継続	観光関連事業者	タイプＣ	各地域

＜検証方法＞

- タイプA:国立公園満喫プロジェクトの一環として､環境省で実施する全国的な調査の結果のうち、大山隠岐国立公園に係る結果を用いる。必要に応じて補完調査を行う。
- タイプＢ：環境省で実施する全国的な調査データを用いて把握する。
- タイプＣ：事業者の協力を得て、大山隠岐国立公園及びその周辺地域で実施されているツアーについて調査し、把握する。

＜2030 年までの達成目標＞

以下の指標については、目標Ⅰの達成状況を数値的に表すものとして目標値を設定して取り組む。

指標	単位	対象	2025 年の数値 日本人/外国人	2030 年目標
一人あたり消費額	円/人	日本人・外国人旅行者	50,156/57,440	（外国人）2025 実績の 1.1 倍 **63,000 円**
利用者満足度 7 段階評価における 7-5 の選択	%	日本人・外国人旅行者	73.1/80.0	（日本人）**80%** （外国人）**90%**
国立公園の認知割合	%	日本人・外国人旅行者	63.6/62.9	（日本人）**80%** （外国人）**80%**
利用者推奨度	%	日本人・外国人旅行者	58.1/68.6	（日本人）**80%** （外国人）**90%**

＜関連指標＞

以下の指標については、目標への進捗状況を把握する関連指標として設定する。

指標	単位	対象	2025 年の数値 日本人/外国人
一人あたり滞在日数	泊	日本人・外国人旅行者	1.3/2.6
リピーター率	%	日本人旅行者	66.9/42.9
ツアー稼働数	件	観光関連事業者	新規
ツアー提供数	件	観光関連事業者	大山蒜山三徳山 21 隠岐 9 島根半島東部 3 島根半島西部 8 三瓶山 2

（2）目標Ⅱに対応する指標

指標	区分	対象	検証方法	実施単位
日本人旅行者 延べ宿泊者数	継続	日本人旅行者	タイプＤ	公園全域
外国人旅行者 延べ宿泊者数	継続	外国人旅行者	タイプＤ	公園全域
クルーズ船等の 利用者数	継続	日本人･外国人旅行者	タイプＥ	公園全域

＜検証方法＞

- タイプＤ：観光庁が実施する「宿泊旅行統計調査」の結果のうち、大山隠岐国立公園の区域が含まれる市町村内の宿泊施設に宿泊した旅行者の延べ宿泊者数を算出する。
- タイプＥ：境港に寄港したクルーズ船等の利用者のうち、大山隠岐国立公園内に行くツアーの参加者数等から推計する。

＜2030 年までの達成目標＞

以下の指標については、目標Ⅰの達成状況を数値的に表すものとして目標値を設定して取り組む。

指標	単位	対象	2025 年の数値 （基準年実績）	2030 年目標
日本人旅行者 延べ宿泊者数	人	日本人旅行者	3,116,662 （3,832,673）	2019 年の水準 **380 万人**
外国人旅行者 延べ宿泊者数	人	外国人旅行者	128,105 （102,565）	2024 年実績の 2.6 倍 **26 万人**

＜関連指標＞

以下の指標については、目標への進捗状況を把握する関連指標として設定する。

指標	単位	対象	2025 年の数値 （基準年実績）
クルーズ船等の 利用者数	人	日本人・外国人旅行者	2,410

（3）地域別指標の設定

大山隠岐国立公園全体の動向だけでなく、地域別に利用の動向を把握することで状況の分析や課題の抽出、具体的な取組の実施につなげやすくするため、主要な利用拠点ごとの利用者数について、既存の調査からデータを抽出して把握する（データ出典：鳥取県、島根県及び岡山県の観光動態調査を想定)。なお、これら以外に個別で得られるデータ（環境省等が集計している登山者数のデータや、自治体・観光協会・DMO 等の観光地域づくりを担う主体が保有する満足度、宿泊者数、消費額、交通利用状況データ等）についても可能な限り活用し、毎年取りまとめる大山隠岐国立公園保護管理レポートにおいて掲載する。

＜各県の観光動態調査でデータが把握されている主要な利用拠点＞

- 鳥取県：大山周辺、三朝温泉、皆生温泉
- 島根県：加賀の潜戸、潜戸遊覧船、桂島海水浴場、桂島キャンプ場、美保関、北浦海水浴場、日御碕、出雲大社、おわし浜海水浴場、三瓶山（太平山デッキ)、湯抱温泉、海中展望船あまんぼう、明屋海岸キャンプ場、国賀海岸、耳浦キャンプ場、ノア隠岐、知夫赤壁、隠岐自然館、塩浜海水浴場、中村海水浴場、福浦海水浴場、玉若酢命神社
- 岡山県：蒜山高原、休暇村蒜山高原、蒜山高原キャンプ場

＜保全・再生の取り組みの指標＞

- 鳥取県：大山入山協力金

3　優先的な取組

大山隠岐国立公園満喫プロジェクトとして、優先的・重点的に行うべき取組を以下に記載する。個別の取組の一覧は別途取りまとめる。

3．1　国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組

（1）国立公園全域における優先的な取組

1）国立公園指定 100 周年に向けた機運の醸成と取組の継続

- 大山隠岐国立公園が 2036（令和 18）年に指定 100 周年を迎えることを踏まえ、関係者が連携して 100 周年に向けた取組を展開し、公園全体として機運を高める。そのために、2026（令和 8）年の指定 90 周年の際に実施されたフォーラムや、鳥取・島根・岡山の三県による連携事業、市町村による関連事業、民間事業者による 90 周年ロゴを活用した独自の事業等について単発で終わらせるのではなく、継続・発展させていく。

2）地域における協働、公園横断的な課題の解決に向けた取組

- 大山隠岐国立公園において、関係者が協働で取組を進めるための体制や計画面での見直しを進める。満喫プロジェクト協議会が国立公園の利用及び保全の両面から国立公園全体の方向性を議論し、地域部会において地域別の課題に対応する議論を行う。満喫プロジェクト地域部会や地域の既存の協議会（ジオパーク関連等）とも連携し、順次国立公園の 4 地域（大山蒜山地域、隠岐島地域、島根半島地域、三瓶山地域）の管理運営計画の策定を進める。
- 大山隠岐国立公園全体で共通している課題については、積極的に情報共有や学び合い、連携を図ることで課題の解決や取組の持続可能性の確保を図る。その際、大山隠岐国立公園満喫プロジェクト協議会として勉強会の開催やワーキンググループの設定等を含め、連携を促進するための事業を実施する。公園横断的な課題とその対処としては、例えば以下のような取組が考えられる。

【公園横断的な課題と対処の例】

- 登山道：近自然工法を取り入れた順応的管理の導入を検討し、維持管理体制を構築することで、適切な管理を推進する。
- 草原景観：地域特有の草原景観を維持し、生物多様性を保全するため、山焼きを含めた維持管理体制を構築する。
- ガイド：国立公園ならではの体験を提供し、自然、歴史、文化的価値を伝えるため、質の高いガイドを養成する。

3）滞在体験の魅力向上

- 大山蒜山三徳山地域を対象として基本構想を、大山寺地区においてマスタープランを策定して取組を進めている「先端モデル事業」の実施において、利用拠点における魅力向上を図ると同時に、公園全体としての滞在体験の魅力向上につなげるため、観光庁による事業やアドベンチャーツーリズム推進の動き等と連携しながら取組を展開する。

- アウトドアツーリズムのさらなる推進に向け、キャンプ場を核に、ペットツーリズムやサウナツーリズムなどの体験コンテンツを充実させ、高付加価値化につながる取組を検討する。
- 新たに整備する施設については、全ての利用者にとって使いやすいユニバーサルデザインの導入を積極的に検討する。
- 誰もが安心、安全に楽しむことが出来る施設の維持管理及び整備を行う。展望施設については修景伐採による展望の確保を含め、本来の魅力を発揮させるための維持管理を行う。

4）誘客・プロモーションの実施、民間連携

- 大山隠岐国立公園公式 SNS（Facebook 及び Instagram）や動画配信サイト（Youtube）における情報発信を行うとともに公式ウェブサイト上で大山隠岐国立公園の魅力を発信し、認知度の向上と来訪動機の醸成を目指す。
- 大山隠岐国立公園とその周辺地域における体験ツアー等について、瀬戸内海国立公園や山陰海岸国立公園等と連携した広域のものを含む周遊ルートの情報と合わせて、オンライン・トラベル・エージェント（OTA）や商談会等の機会を活用して、プロモーションを行う。
- 日本の国立公園の魅力を国内外に発信することを目的とする「国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム」を締結している企業や団体との連携を推進する。
- 大山隠岐国立公園における民間事業者等との連携については、従来「大山隠岐国立公園満喫プロジェクトに参画・賛同する機関・団体」として SUP に位置付けてきたが、その意義や参画・連携のあり方について見直しを行い、より効果的に民間主体が国立公園における取組に関われる枠組み作りを進める。
- 大山蒜山三徳山地域内での周遊や、島根半島東部地域にまたがる周遊を促進するルートを充実化するとともに、ファムトリップツアー※の実施等を通じて、その情報を発信する。

※ファムトリップツアーとは、自治体や観光地が旅行会社・メディア・インフルエンサーなどを招待し、現地を視察・体験してもらうことで観光プロモーションを行う招待型視察旅行のこと。

- 遭難及び事故防止等の注意喚起等、登山者に向けた適切な情報を発信する。

（2）島根県内の 4 地域における優先的な取組

1）自然環境の自然体験プログラムの充実化

- 2022（令和 4 ）年度末の大山隠岐国立公園（隠岐島・島根半島・三瓶山地域）の公園計画の変更（第 3 次点検）において記載された自然体験活動計画を踏まえ、質の高い自然体験活動を促進する。
- 自然環境の保全活動を体験プログラムとして開発し、持続可能な取組となるよう検討する。
- 朝・夕の体験プログラム開発など更なる充実に取り組み、宿泊を伴う滞在の延長を促進する。

2）誘客・情報発信の強化

- しまねの自然公園に特化した情報サイト「しまねの自然公園満喫プロジェクトホームページ」を作成し、島根への来訪を検討する方等に対し、国立公園等の魅力や活用方法等、自然を楽しむための情報等を提供。来訪意欲をかきたてる効果的な誘客を図る。

- 国立公園を中心とした、県内の自然公園の魅力ある映像を使った動画を作成し、国内及び海外向けに YouTube への動画広告を配信し、プロモーションと視聴者ニーズの分析（Google ビジネスプロフィールを利用）を行う。

３．２　大山蒜山三徳山地域で実施する取組

（１）大山蒜山三徳山地域の概要

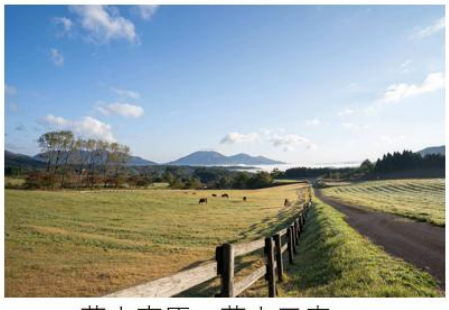
大山蒜山三徳山地域は、中国地方最高峰の大山から蒜山と毛無山に亘る山地一帯と、三徳山一帯から成り、豊かな自然を有する。大山の山頂付近には国指定特別天然記念物に指定されている国内最大のダイセンキャラボク群落が分布するとともに、高山植物が多く生育しており、中腹には西日本最大規模のブナ林が広がる。蒜山はなだらかな山容を有しており、その麓には草原景観が広がる。毛無山にはまとまった面積のブナ林が残っており、三徳山では照葉樹林から落葉広葉樹林へと標高に沿って移行する植生の垂直分布が見られる。また、この地域は植生が多様なだけでなく動物相も豊かであり、鳥類ではイヌワシやクマタカ、ブッポウソウ等、両生類ではオオサンショウウオ等、昆虫類ではフサヒゲルリカミキリやゴマシジミ等の絶滅危惧種を含む多くの種が生息している。

そして、この地域のうち大山、船上山及び三徳山は伯耆三嶺（ほうきさんれい）と称され、古来より山岳信仰の霊場となってきたこと等を背景に、文化資源も豊富である。例えば、大山と三徳山は開山 1,300 年以上の歴史をもち、それぞれに関連したストーリーが日本遺産の認定を受けている。これらの地域には、国宝である三徳山の投入堂や、国指定重要文化財である大神山神社奥宮や大山寺阿弥陀堂、三佛寺文殊堂等、国指定史跡である船上山行宮跡等の多数の文化財が現存し、国立公園における魅力の一翼を担っている。

主要な観光コンテンツとしては、大山や桝水高原、船上山、大山滝、蒜山三座等での登山・ハイキングや自然探勝、大神山神社奥宮や三徳山三佛寺等の寺社参詣、大山寺地区や奥大山・鏡ヶ成、蒜山高原でのキャンプ、スキー、サイクリング等が挙げられ、四季を通じた多様な利用がなされている。とりわけ大山は標高 1,729m（剣ヶ峰）の独立峰で、山頂周辺では眼下に日本海が見えるほか、隠岐諸島、蒜山三座や三瓶山、中国山地の山々も望める 360 度の眺望が開け、国内外からの利用者で賑わっている。

このような豊かな自然と文化に特徴づけられた地域資源を保全するために、官民の取組が各地で行われてきている。特に、1985（昭和 60）年から続けられている、登山者の踏圧により裸地化した大山山頂の植生復元の取組「一木一石運動」は、オーバーユースに対する先進的な取組として全国的にも有名である。


大山


蒜山高原・蒜山三座

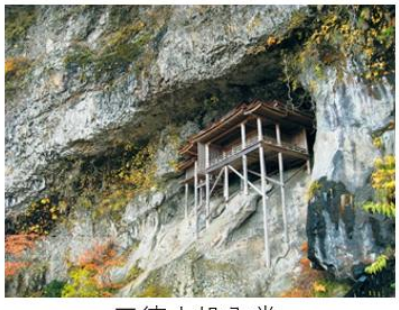

三徳山投入堂

図２３　大山蒜山三徳山地域の主な見どころ

（２）重点地区及び優先的な取組

１）大山寺及び大山山頂

（地区概要）

大山寺地区は、大山登山の出発点であるとともに、中国地方で最大規模のスキー場があるなど自然を楽しむアクティビティの核心地であり、大山登山やスキーに加え、周辺のブナ林の散策、カフェやショップの利用等が楽しまれている。また、古くからの山岳信仰の中心地として、大神山神社奥宮や大山寺への参詣がなされており、地区一帯が国の史跡「大山寺旧境内」に指定されている。

さらに、旅館やホテル、キャンプ場が隣り合う宿泊拠点でもある。

大山の最高峰は標高 1,729m の剣ヶ峰であるが、崩落により剣ヶ峰に至る縦走路は立入りが禁止されている。このため、登山者が行くことのできる頂上は標高 1,709m の弥山までであり、ここでいう大山山頂も弥山を指す。大山山頂には、大山寺地区を出発点とする夏山登山道と、これに５合目付近で合流する行者谷登山道によりアクセスできる。大山山頂では、その優れた景観の維持と利用を両立させるため、木道や避難小屋等の必要な施設を整えるとともに、地元団体やボランティアによる植生復元や施設の維持のための活動が盛んに行われている。

（優先的な取組）

①先端モデル事業等による保護と利用の好循環の創出



- 宿泊施設を中心とした利用拠点の滞在体験の魅力向上により、利用の対価を自然環境の保全や地域の文化の維持･再生に活かすことにつなげ、保護と利用の好循環の創出を図る。その際、参道エリアの再生、自然と歴史を楽しむ道の整備･改修、スキー場エリアの取組との連動等により、面的な、魅力を高めるとともに、より広域での周遊につなげる取組を推進する。

②自然・文化体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- 星空観察ツアーや日本遺産「大山」のストーリーを活かしツアー等、大山寺を発着点等とするツアーの充実化・磨き上げを行うとともに、ガイドの育成を推進する。

③施設の整備・改修、まちなみ景観の改善

- 植生保護のための山頂付近の木道を含め、大山６合目から山頂までの区間の登山道を改修するとともに、大山登山道及び中国自然遊歩道の案内板等を更新し、登山者の利便性を向上させる。
- 上質化事業の活用を含め、大山寺参道周辺における老朽化施設の改修や廃屋の撤去等を行い、まちなみ景観の改善を図る。
- 展望所等において、樹木の成長に伴い、本来の眺望が確保できなくなっているため、修景伐採を行い、本来の魅力の発揮を図る。

④自然環境の保全

- 近年、国立公園特別保護地区内で侵入・分布拡大が確認されている外来種対策を実施する。
- 一木一石運動やキャリーアップ・キャリーダウンイベントなどで利用者へ環境保全に関する普及啓発を求めていく。
- 近年増加傾向にあるシカの食害について、希少植物の保護を実施する。

• さらなる保全活動の活性化のため、山岳保全団体の育成を推進する。

⑤入山協力金を活用した持続可能な山岳環境の保全と利活用

• 入山協力金制度のさらなる浸透を促進し、協力率の向上を図ると共に配分先の拡充を検討することで利用と保全の好循環を推進する。

2）奥大山・鏡ヶ成

（地区概要）

奥大山は大山の南壁から岡山県との県境までの地域を指し、鏡ヶ成を含む。鏡ヶ成は、烏ヶ山、象山及び擬宝珠山に囲まれた標高 930m の盆地状の高原で、登山や湿原散策、ピクニック、キャンプ、スキー等が楽しまれている。鏡ヶ成湿原では、地下水位の低下等が原因となり生態系の劣化の傾向が見られたことから、2000（平成 12）年から湿原再生の取組が行われている。これらの他、紅葉の名所である鍵掛峠や、静謐な雰囲気の木谷沢渓流が魅力として挙げられる。豊かな自然の恵みであるミネラルウォーターの採水地や工場もある。鏡ヶ成湿原・草原及びサントリー天然水の森奥大山エリアは、2025（令和 7 ）年度に自然共生サイトに認定されている。

（優先的な取組）

①湿原と草原の保全と持続可能な利用

• 自然共生サイトの認定を受けた鏡ヶ成湿原・草原の保全・再生と利活用のための取組を実施する。
• 近年増加傾向にあるシカの食害について、希少植物の保護を実施する。
• 鏡ヶ成湿原・草原及びその周辺の保全・再生と利活用のための取組を実施する。
• 希少な動植物の保全に係る取組を実施する。



②観光振興に向けた検討

• 現在休止中の奥大山スキー場を含むエバーランド奥大山等の周辺の施設、観光資源の更なる利用促進を目指し、活用計画を策定し、同計画に基づき整備を進める。

③施設の整備・改修

• 老朽化した各種施設の再整備計画を策定し、同計画に基づき整備を進める。その際、誰もが楽しめる国立公園を目指し、ユニバーサルデザインの導入を検討する。

3）蒜山

（地区概要）

蒜山は、岡山県と鳥取県の境に位置する上蒜山、中蒜山、下蒜山から成る連山の蒜山三座と、その裾野に広がる蒜山高原で構成される。山麓の草原景観の維持や、草原に生息するフサヒゲルリカミキリ等の絶滅危惧種の保護のため、蒜山自然再生協議会により山焼き等の保全活動が行われている。蒜山高原は、避暑地やリゾート地として知られている。高原や田園の牧歌的な風景の中を走る

サイクリングをはじめとして、登山やキャンプ、日本名水百選の一つである「塩釜の冷泉」や周辺のカフェ、レストラン、レジャースポット等の周遊観光が楽しまれている。蒜山高原の鳩が原草原及びその周辺の湿原は、2024（令和６）年に自然共生サイトに認定されている。



（優先的な取組）

①自然環境の保全と持続可能な利用

- 蒜山自然再生協議会を中心として、自然環境の保全・再生・維持管理に係る活動や自然資源を産業・観光で活用できる仕組みづくり、情報の収集・蓄積・発信体制の強化、持続的な取組とするための資金調達手法など、引き続き蒜山地域固有の自然・文化・景観を保全する各種取組を進める。蒜山地域自然再生全体構想に基づく自然再生事業実施計画を策定する。

②体験ツアーの充実化、ガイド等の育成

- Forestrail Hiruzen Shinjo にて行う登山道整備プログラムを始めとする利用と保全が一体となった体験アクティビティの整備、拡充。
- 蒜山地区の観光に係る基礎知識の習得や感染症対応を含む接客スキルの向上、誘客のための発信等について、ガイド等への研修を実施する。
- 自然環境を活用した夜のコンテンツとして蒜山スターウォッチングや星空観賞会を充実させ、宿泊客の満足度向上、観光消費の拡大につなげる。
- 環境負荷の少ない E-bike 等を用いたツアーコンテンツの強化に取り組み、アクティビティガイドの人材育成を進める。

③ネイチャーポジティブ“経済”の仕組みづくり

- 自然共生サイト認定を契機とした民間企業との連携による資金調達に取り組む。
- ネイチャーポジティブに向けたビジネス共創プログラムの企画運営を行い、ネイチャープレナー※の育成を図る。

※ネイチャープレナーとは、Nature（自然）と Enterepreneur（起業家/事業をつくる人）を組み合わせた造語。

- コミュニティブランドである「GREENable」商標権、フサヒゲルリカミキリ 3D NFT（非代替性トークン：デジタル資産を証明する仕組み）による売上収益を自然再生・環境保護活動に活用する。

④施設の整備・改修

- 蒜山三座をはじめとする登山道について、蒜山自然再生協議会の取り組みと連携し、「近自然工法」を用いた整備を進める。
- 蒜山大山スカイライン沿線、蒜山三座登山道、塩釜園地周辺におけるナラ枯れ被害木の伐倒整理を行う。
- 国道、県道に整備している登山口等の案内標識について、多言語化、ピクトグラム表示を進める。
- 大山隠岐国立公園指定 90 周年に合わせ、「大山みち」の再生に向けて整備・活用の検討を進める。

• 国立公園の利用の高付加価値化に向けた先端的なモデル事業による宿泊施設を誘致する。

4）三徳山

（地区概要）

国宝投入堂をはじめ多数の文化財を擁する三徳山は、天神川の支流三徳川の左岸に位置する標高900ｍの極めて自然豊かな山地である。この急崖地形に恵まれた谷深い複雑な地形は、その幽玄な風致・景観から国立公園とともに国の史跡名勝に指定されており、開山から約 1300 年前から山岳信仰の霊場として信仰されてきた。その山内には標高 800ｍ余りの尾根まで広葉樹の自然林が広範囲にわたり展開しており、鳥取県内でも最も植物相が豊富で貴重種も多く、植物の宝庫と呼ぶにふさわしい。これらの歴史的建造物群と豊かな自然環境を後世に継承するため、日本遺産三徳山三朝温泉を守る会を中心に、地元のボランティアや町内の小中学生のほか、県内の高校生や大学生、賛同企業の参画による保全活動が展開されている。

（優先的な取組）

①風致・景観の保全と歴史的伝統建築物群・遺構の維持改修

• 近年、山林所有者不在等による不適正管理の森林が散見されることから、史跡名勝の指定地内における山林の適正管理等、風致景観への影響を抑制する。
• 行者道の荒廃や自然災害による被災箇所の修復について、所有者である三徳山三佛寺をはじめ、日本遺産三徳山三朝温泉を守る会を中心とした『山護運動』と称する保全活動への支援を行う。
• 国宝投入堂をはじめとする国重要文化財指定の歴史的建造物群の維持修繕ついて、所有者による計画的な維持改修費について支援する。

②学術的価値の調査及び伝統建築物群の維持改修

• 三徳山地内はその急崖な地形から未踏査地も多く、調査範囲が多岐にわたることから、引き続き、学術的な価値の全容解明に向けた調査を行う。

③国立公園及び日本遺産構成要素としての活用推進

• 国立公園であり日本遺産の構成要素でもある三徳山を訪れる外国人に対し、豊かな自然環境や文化的価値・魅力を伝えるため、多言語対応のデジタルサイネージ等の整備・充実を図る。また、三徳山と同じく日本遺産の構成要素であり、豊かな自然環境を有する”小鹿渓”について、三徳山と連携した面的な活用を検討する。

④地域資源（歴史文化及び豊かな自然環境）の継承と次世代育成

• 義務教育課程における地域探求や体験活動等を通じ、当該地区の類まれな景観特性や貴重な文化資源への理解を深め、ふるさとを愛する心の醸成を図るとともに夢と誇りを持った将来の担い手の育成に繋げる。

（3）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1）自然環境の保全

- シカの生息状況及び植生への影響の状況を把握して関係主体で情報共有し、連携して個体数を減少させるためシカの捕獲を行うとともに、必要に応じて植生保護のための対策等を検討する。
- ナラ枯れ被害木の適切な処理や森林の手入れによって、被害の拡大の防止と利用者の安全の確保を図る。
- 自然環境や利用状況の現状を踏まえ、大山蒜山地域の公園計画及び管理計画の改訂を検討する。

2）周辺地域との連携による周遊・滞在型観光の推進

- 周辺地域のキラーコンテンツであるオオサンショウウオ保全体験ツアーの磨き上げや生息地保全の取組を行うとともに、大山蒜山三徳山地域等への周遊を促す形で情報発信を行う。
- ツキノワグマによる事故を回避するため、適切な情報発信を行う。

3）施設の整備・改修

- 大山滝吊橋を改修するとともに、中国自然歩道の一向平から三徳山に至る区間において歩道の改修や標識整備等を行う。
- 日本遺産重点支援地域でもある三徳山地域においては、三徳山遙拝所への望遠鏡の追加整備や案内看板の更新等を行い、来山者の利便性向上と更なる魅力発信に繋げる。
- サイクルツーリズムを推進するため、自転車走行空間の整備に向けて検討・整備を行い、ユーザーの利便性を向上させる。
- 大山周辺のロングトレイル上にある老朽化したベンチやテーブル等を改修し、利便性の向上と安全・安心の確保を図る。
- 登山者の安全を確保するため、管理者のいない登山道の管理方針について検討を進める。

３．３　隠岐地域で実施する取組

（１）隠岐地域の概要

隠岐地域は、島根半島の沖合約 40～80km に浮かぶ島後（島）、西ノ島、知夫里島、中ノ島の４つの有人島の海岸線周辺と、島後の大満寺山系から成る。西ノ島、知夫里島、中ノ島とそれらの周辺の無人島は、群島として島前と呼ばれる。

隠岐諸島は、ユーラシア大陸の一部であった時代、湖底及び海底にあった時代、火山活動によって隆起した時代、島根半島と陸続きになった時代等を経て形成されたと考えられている。このような地質学的な成り立ちや、対馬暖流の影響により、隠岐諸島には南方系と北方系の植物が共存するなど、特有の生態系が形成されており、オキシャクナゲ、オキタンポポ、オキサンショウウオ、オキノウサギ等の固有種・固有亜種も生育・生息する。

文化的側面からは、遠流の島として後鳥羽上皇、後醍醐天皇ゆかりの地や資料が多く存在することや、祭や神事、古典相撲や牛突き等の多様な文化が受け継がれていること等が特筆される。

学術的価値の高い地質学的な成り立ちや、北方系・南方系の植物が共存する独自の生態系、古代から続く人の営みとの３要素が総合的に評価され、隠岐諸島は 2013（平成 25）年世界ジオパーク（現：ユネスコ世界ジオパーク）に認定されている。

代表的な見どころとしては、島後では浄土ヶ浦の多島海景観、最北端の断崖である白島海岸、よろい岩やローソク島等が、島前では三島に抱かれた穏やかな内海景観や、海蝕によって生み出された断崖である摩天崖（国賀海岸）や赤壁、明屋海岸が挙げられる。また、2022（令和４）年度末の公園区域及び公園計画の変更（第３次点検）により、島後の壇鏡の滝が公園区域として新たに編入された。

利用については、春季から秋季を中心に、主要４島間の周遊、遊覧船や遊歩道沿いでの自然探勝、シーカヤックや釣りをはじめとする各種マリンアクティビティ、寺社参詣や史跡の訪問、サイクリング等が楽しまれており、一年を通した体験メニューとしてトレッキングツアーの開発も進められている。



ローソク島



赤壁



国賀海岸（摩天崖）

図２４　隠岐地域の主な見どころ

（２）重点地区及び優先的な取組

１）浄土ヶ浦・大満寺山・鷲ヶ峰・国賀海岸

（地区概要）

浄土ヶ浦海岸は優れた多島海景観を有し、他の地域では見られない北方系、南方系、大陸性の植物の混在が観察できる島後における屈指の見どころである。また、島前の国賀海岸は、摩天崖や通天橋など、海上、陸上どちらから見ても絶景が楽しめる。ここでは遊歩道の散策やデッキからの景観鑑賞以外にも、キャンプ、シーカヤック、休憩施設での食事等が楽しまれている。周辺の大満寺山、鷲ヶ峰では、若者を中心にトレッキングを楽しむ人が増加しており、屏風岩、トカゲ岩といったジオサイトや自然回帰の森では、奇岩とともに隠岐の固有種であるオキシャクナゲなど様々な植物を観察できることから人気が高い。

（優先的な取組）

①自然体験アクティビティの充実化

- 民間事業者と連携して、通年型のトレッキングツアー、シーカヤックツアー等の自然資源を活用したアクティビティの充実について検討する。

②施設の整備・改修

- キャンプ場や遊歩道等を再整備し、受入環境の向上を図る。
- 遊歩道の整備・改修にあたっては、近自然工法の採用を積極的に検討する。





（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

１）自然体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- 隠岐地域におけるシーカヤック、トレッキング等のアクティビティの充実を図るため、新たなコースの開拓、認定ガイドの育成、マップ等の作成、ツアー催行体制の整備を行うとともに、旅行商品の造成・販売等を実施する。
- 認定ガイドのスキルアップ講座の開催、新規認定ガイドの養成を行い、ガイドの質及び数を担保するとともに、（一社）隠岐ジオパーク推進機構の Web 上で認定ガイドを紹介し、ガイド付きツアーの促進を図る。
- 隠岐の島町の「隠岐ジオゲートウェイ」、海士町の「Entô」などの各島にある整備済み又は整備中の各島の情報拠点施設を活用してツアーの商品化を行う。

2）保全・活用事業の推進

- 「隠岐ユネスコ世界ジオパーク保全・活用計画」に基づいた保全・活用事業を、行政や民間団体と連携して積極的に推進する。その際、国立公園の管理運営計画の策定・実施と効果的に連携させる。

3）周遊・滞在型観光の推進と観光案内

- 観光地域づくり法人（DMO）として隠岐地域の観光促進に取り組んでいる（一社）隠岐ジオパーク推進機構が策定した「隠岐諸島観光振興中長期ビジョン」に基づき、隠岐諸島への誘客促進を図るとともに、観光消費額の増加を図る。

３．４　島根半島東部地域で実施する取組

（１）島根半島東部地域の概要

島根半島東部地域は、半島東端の地蔵崎から西は鹿島町御津へ至る海岸線周辺の一帯である。海岸線には半島や入り江、断崖絶壁が連続する複雑な地形が形成され、国指定名勝天然記念物である加賀の潜戸（くけど）、国指定天然記念物である多古の七ツ穴等の特異な海食景観が成立しており、2017（平成29）年から日本ジオパークに認定されている。海岸山地には関の五本松に代表されるクロマツや、カシ類・シイ類・ヤブニッケイ等の常緑広葉樹林がみられる。また地蔵崎は小鳥類の春・秋の渡りの中継地となっており、シロハラホオジロやカラアカハラ、ヤツガシラ等の珍しい種も観察されている。

文化的側面からは、この地域は国引き、国譲りに代表される神話の主要な舞台である。周辺には、国譲り神話に由来する青柴垣神事や諸手船神事をはじめとする各種神事が継承される美保神社や、雲津浦の諏訪神社など、神話に由来のあるものが多い。

近世以降には日本海航路の啓開に伴って複数の要港が設置され、地蔵崎の美保関灯台や、かつて海上からの目印となった関の五本松等から、その歴史的な経歴を窺い知ることができる。関の五本松を唄った「正調関乃五本松節」は、安来節と共に本邦の代表的な民謡として知られている。

利用については、美保神社の参詣と組み合わせた地蔵崎や五本松公園周辺の散策、遊覧船による加賀の潜戸や多古の七ツ穴等の自然探勝のほか、海水浴や釣り、シーカヤック等が楽しまれている。また、出雲大社と美保神社の両社に参拝する「えびすだいこく両参り」、四十二浦巡り等、域外各地と組合せた周遊観光も行われている。


加賀の潜戸


多古の七つ穴


地蔵崎

図２５　島根半島東部地域の主な見どころ

（２）重点地区及び優先的な取組

１）五本松公園・地蔵崎園地

（地区概要）

地蔵崎園地は、大山の稜線から昇る日の出や日本海に沈む夕日を見ることができ、見通しのいい日には、隠岐諸島を望むことができる展望地である。「世界の歴史的灯台百選」に選ばれた山陰最古の石造りの白く美しい美保関灯台がそびえている。春には北に向かう渡り鳥が多く観察される野鳥スポットでもある。五本松公園には約 5,000 本のツツジが植えられており、特にツツジが咲く春は大山や美保湾の眺望と合わせて楽しまれている。五本松公園から地蔵崎までは遊歩道でつながっており、トレッキングを楽しみながら島根半島特有の植生や渡り鳥を観察できる。周辺では、令和８（2026）年に、重要伝統的建造物群保存地区に選定された美保関地域が主要な利用・宿泊拠点となっている。

（優先的な取組）

①体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- サイクリングやトレッキング等のアクティビティと、宿泊を組み合わせたツアー等の開発や誘客対策について検討する。併せて、これらのメニューに合わせたインストラクター型のガイド育成を推進する。
- 地蔵崎園地特有の植物等を解説できる自然観察ガイドの研修と育成を図る。
- 美保関や美保関灯台・地蔵崎園地の文化的価値のあるロケーションを活用したライトアップや朝活等のナイトタイムエコノミーに取り組む。
- 美保関灯台の限定公開などの既存コンテンツを安定的に実施できる体制を整備し、美保関地区の自然・文化資源を活用した夜間や早朝のコンテンツの充実に向けて検討する。





② 施設の整備

- 美保関灯台の特別公開を定期的に行うための体制を整備し、特有の歴史・文化・自然の魅力を伝えられるガイド育成を行う。
- 利用拠点における施設整備・改修や展望地の通景伐採等を行い、受け入れ環境の向上を図る。
- 五本松公園の施設整備とツツジの管理を行う。

（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

１）周遊ルートやツアーの充実化、ガイドの育成

- えびすだいこく両参り、えびすだいこく 100 キロマラソン、出雲日御碕灯台・美保関灯台など、島根半島東部・西部地域間の繋がりを更に発展させ、若者や女性をターゲットとする縁結びを題材にした周遊ルートの設定やツアーの開発を検討する。

- 島根半島東部を核とする広域的な利用ルートとして、松江しんじ湖温泉や松江城等と島根半島、境港、大山方面等を結ぶロングトレイルルート、サイクリングルート、ウォーキングルート等の設定を検討する。
- 豊かな自然と共存する地域の暮らしや伝統文化・歴史、日本ジオパークに認定されている特徴的な地質・地形、ラムサール条約湿地である宍道湖・中海も活かした、国立公園を核とする広域的な島根半島の周遊コースを検討する。
- 特徴的な地質・地形や歴史・文化及びジオパークの魅力を発信できる新規認定ジオガイドの養成とレベルアップを図る。
- 重要伝統的建造物群保存地区に選定された美保関地域から重要文化財である美保関灯台へと観光客の流れを延伸するため、レンタル電動自転車等の普及を促進する。
- 美保関地区における歴史・文化を伝えるガイドの養成と街歩きの取組を推進する。
- 豊かな海の恵を体験できる漁業を活用したアクティビティや食文化体験の造成を促進する。
- 五本松地蔵崎線歩道（ウォーキングトレイル）を活かしたガイドツアーの取組を推進する。
- 境港寄港のクルーズ船からの誘客のため、境港寄港時（前）の船内多言語インフォメーション（大山隠岐国立公園の魅力案内）を検討する。
- 国立公園を生かしたショアエクスカーション（寄港地観光ツアー）プログラムを開発・造成する。

2）施設整備・改修

- 主要なアクセス経路上において、良好な景観を眺められる駐車・休憩ポイント等の整理・把握を行った上で必要な整備について検討する。
- 桂島海岸・加賀の潜戸・多古鼻において、シーカヤック、ダイビング、トレッキング等のアクティビティに対応したサービスの充実化を図るため、当該地域関係者による情報共有を行った上で必要な施設整備の検討を行う。
- 美保関地区における建築物の修繕、修景などへの取組。

３．５　島根半島西部地域で実施する取組

（１）島根半島西部地域の概要

島根半島西部地域は、鷺浦から島根半島西端の日御碕を経て出雲大社周辺に至る海岸線周辺の一帯である。北側の海岸線には半島や入り江が連続する複雑な地形を有し、鷺浦の縦穴海食洞、日御碕の隆起海岸等、特色ある景観が見られ、島根半島東部地域と同様、2017（平成 29）年から日本ジオパークに認定されている。この地域の海岸沿いにはクロマツの風衝林がみられ、出雲大社境内には良好なスダジイの照葉樹林がみられる。海中にはホンダワラ類やアラメ、エビアマモ等の海藻林が生育している。日御碕には、ウミネコの集団繁殖地で国の天然記念物に指定されている経島やイズモサンショウウオの生息地がある。

文化的側面からは、出雲大社が鎮座し、多くの観光客を惹きつけている。各地で年間を通して様々な神事が執り行われるが、中でも旧暦 10 月に、稲佐（いなさ）の浜に八百万の神々をお迎えする神迎神事（かみむかえしんじ）・神迎祭（かみむかえさい）には、国内外から多くの参拝者が訪れる。また、江戸時代に北前船が寄港した鷺浦地区には、美しい自然と赤瓦の古い街並みが残されている。この地域を包含する形で、「日が沈む聖地出雲」として日本遺産に認定されている。

利用については、出雲大社や日御碕神社の参詣、出雲日御碕灯台の参観や、その周辺での自然散策が主に行われている。夏季には海水浴や、スキューバダイビング、海岸線のクルージング等の利用がなされている。



日御碕



経島とウミネコ



出雲大社

図２６　島根半島西部地域の主な見どころ

（２）重点地区及び優先的な取組

１）日御碕及び鷺浦

（地区概要）

日御碕は、リアス海岸の岸壁にそびえ立つ国指定重要文化財である出雲日御碕灯台、同じく国指定重要文化財の日御碕神社、ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている経島等の見どころがあり、古くから神幸神事（夕日の祭り）が執り行われている夕日スポットである。自然・歴史・文化に触れるトレッキング、ガイドツアーのほか、雄大な海岸線や日御碕の美しい景観を海上から楽しめるクルージングやシーカヤック、釣りやスキューバダイビング等のアクティビティが楽しまれている。

また、鷺浦は、日御碕に隣接した山と海に囲まれた小さな港町で、かつては北前船の寄港地として栄え、美しい自然と赤瓦の家々、古い町並みが今でも残っている。

出雲市うさぎ森林公園では、環境学習に繋がる体験など多様なプログラムが提供されている。

（優先的な取組）

①自然・文化体験ツアー、プログラムの充実化

- 自然景観を楽しむとともに、歴史や文化に触れることのできる神楽公演やツアーの実施



②まちなみ景観の改善等

- 一体感のあるまちなみ景観の醸成、サービスの上質化のため、店舗や宿泊施設の修景を推進
- 自然景観や自然体験を安心安全に楽しむことができるよう遊歩道や設備等の保守・整備



③ガイド育成

- 「聖地にある国立公園」として、文化と自然の魅力をともに伝えることができるガイドの育成

④空き家・空き地の対策

- 近年増加する空き家、空き地を有効活用し、新規出店等を促進することで利用者の満足度向上と地域経済の活性化に向けた取組の検討

（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

１）自然・文化体験ツアー、プログラムの充実化

- 国立公園や島根半島・宍道湖中海ジオパークの自然資源と、神話や日本遺産「日が沈む聖地出雲」等の歴史・文化資源を活用したツアーやイベントの充実化
- 夕方から夜、または早朝の時間帯に行うツアーやアクティビティの開発を検討

2）周辺地域との連携による滞在型観光の推進

- 島根半島・宍道湖中海ジオパークやえびすだいこく両参り、国引き神話等の要素を組み込んだ広域周遊ルートの設定やツアーの開発
- 国立公園や日本遺産やジオパークの魅力を発信できる多言語ガイドの育成・スキルアップ

3）自然景観保全のための野生鳥獣対策の推進

- ニホンジカ食害への対応を促進する。

4）感動を与える美しい自然風景の眺望の維持

- アクセス経路上について、美しい景観を眺められる駐車場・展望施設等の修景伐採による眺望の確保及び維持管理

３．６　三瓶山地域で実施する取組

（１）三瓶山地域の概要

三瓶山地域は、山麓部に広がる草原を含む三瓶山一帯と湯抱温泉地区から成る。三瓶山の中央部には溶岩円頂丘群の男三瓶、女三瓶、子三瓶、孫三瓶等が室の内という中央のくぼ地を囲むように環状に連なる。

また三瓶山は、中国山地から離れた独立峰であるため遠方からもよく見え、出雲国風土記が伝える「国引き神話」において、国引きの杭に見立てられるなど、古くから信仰の対象となってきた。

男三瓶の山頂一帯は風衝草原となっており、ススキを始めとする草本が生育している。男三瓶の北側斜面と室の内にはブナの自然林が分布し、国の天然記念物に指定されている。古くから放牧地として利用されている山麓の北の原、西の原、東の原に広がる草原には、ヤマラッキョウやカイジンドウ、マツムシソウなどの多様な草原性植物が見られる。中でも西の原では、放牧に加え、火入れやユウスゲ等の希少植物の保護活動等が行われており、2026（令和８）年３月に自然共生サイトに認定されるなど、三瓶山の象徴と言われる草原景観が維持されている。また、西の原には浮布池、北の原には姫逃池、室の内には室の内池といった成因の異なる池があり、地域で保全活動が行われている。

この地域は、「島根県立三瓶自然館サヒメル」や「国立三瓶青少年交流の家」、「山の駅さんべ」など複数の活動拠点と多様な自然環境を有しており、登山、ハイキング、キャンプ、ピクニック、クロスカントリー、ツーリング、自然学習など、四季を通じた幅広い利用が行われている。また、三瓶温泉や湯抱温泉は古くから情緒ある保養地となっている。この地域の近隣にある、約 4,000 年前の三瓶山の噴火により埋没した巨木群は、「三瓶小豆原埋没林」として国の天然記念物に指定され、世界遺産石見銀山遺跡をはじめとする三瓶山・大江高山の火山活動に由来する周辺の文化財とともに、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森”“銀（しろがね）の山”と出逢える旅へ～」に認定されている。



男三瓶・子三瓶と浮布池



西の原（放牧）と男三瓶



大平山

図２７　三瓶山地域の主な見どころ

（２）重点地区及び優先的な取組

１）男三瓶山頂

（地区概要）

三瓶山は複数の峰が環状に連なっており、それぞれの山頂へ至る登山道や峰々を周回する縦走路等、複数の登山道があり、子どもから高齢者まで幅広い利用がある。

標高 1,126m の男三瓶は、三瓶山の最高峰で、山頂からは遠く日本海や島根半島を望むことができる。山頂一帯は風衝草原となっており、リンドウ等の草原性植物が生育しているほか、秋にはススキ原が広がり、2023（令和５）年から登山道や標識の修繕が行われ、2025（令和７）年には山頂トイレが設置されたことで、多くの登山者が安心して登山を楽しんでいる。一方、複数の登山道の交差点となっていること等から登山者が多く、踏み荒らしや土壌流出等により植生が衰退している箇所がある。

（優先的な取組）

施設の維持管理整備

- 利用者数情報の整理・把握を行い、当該地域の利用者数情報の活用について関係者で検討を行う。
- 行政・民間が当該地域で行われるアクティビティ情報等の情報を共有出来る体制整備を行う。また、より一層の質の高い自然体験活動の促進を目指した取組の検討を行う。
- 登山道や展望施設など主要な利用施設について、計画的な維持管理を実施し、利用環境の向上と安全性の確保を図る。



（３）地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

１）自然環境の保全

- シカの出現状況を注視し、必要な場合には分布拡大を防ぐ取組や植生保全のための予防的措置を検討する。
- ナラ・マツ枯れ被害木の適切な処理や森林の手入れによって、被害の拡大の防止と利用者の安全の確保を図る。
- 西の原の草原保全活動やクリーン三瓶、姫逃池カキツバタ群落や希少動植物の保全活動に継続して取り組むとともに、持続可能なしくみを検討する。
- セイタカアワダチソウ等の外来種の防除に継続して取り組む。
- 自然共生サイトの認定を受けた三瓶山西の原草原保全活動実施計画により、西の原の草原景観と生物多様性の維持管理を図る。

２）体験ツアーの充実と周遊・滞在型観光の推進

- 日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森”“銀の山”と出逢える旅へ～」を軸として、三瓶山と石見銀山の連携を一層強化し、誘客を促進する。

- 三瓶山を中心とした東西南北の利用拠点の機能充実及び相互連携の強化により周遊を促進し、三瓶地域における滞在時間の増加と利用者満足度の向上を図る。
- 温泉や食、石見神楽など地域の素材を活かした冬期や悪天候でも楽しめる体験ツアーを商品化し、誘客を図る。
- 生物多様性及びネイチャーポジティブに関する学習機会の拡大のため、自然・天体観察体験の促進を図る。
- 三瓶自然館サヒメルなどを中心とした植物や昆虫、動物などの自然観察プログラムの充実を図る。
- 夜の天体観察イベント開催による近隣宿泊需要の創出を図る。

4　進捗評価及びプログラムの改訂

4．1　地域協議会の体制と役割

本プログラムを地域関係者間の協働で実施するため、地域協議会及び地域部会がプラットフォームの役割を果たす。各主体の取組を共有し、地域間での学びあいや連携を促すのみならず、協議会としての取組を実施し、ソフト面で大山隠岐国立公園全体での魅力の向上を推し進める。具体的には、国立公園全体で課題となっているテーマ（例：ガイド養成等）に関するテーマ別の取組や、地域単位の課題への対処（例：国立公園管理運営計画と満喫プロジェクトの連動、ジオパークや日本遺産との連携など）に関し、関係主体が協働で取り組むための伴走支援を実施する。その際、必要に応じてワーキンググループ等を設置し、幅広い主体の参画を促す。

地域協議会の開催に当たっては開催の目的を明確化し、継続的な参画の意義が高まるよう努める。必要に応じて担当者間の準備会合等も開催する。民間事業者等との連携についても、参画の意義が明確に伝わるよう連携・実施内容を整理していく。

加えて、満喫プロジェクトの取組の効果が地域全体の魅力と持続可能性の向上につながるよう、協議会における取組は、国立公園外の地域との連携も視野に入れて進める。

4．2　大山隠岐国立公園パートナー

大山隠岐国立公園に関連した取り組みを行っている民間企業や団体等に呼びかけ、連携して魅力向上に取り組むパートナーとして、情報の相互の発信や協議会の活動への参画などを促す。

4．3　進捗評価

本プログラムの実施期間中は、地域協議会及び各地域部会において、以下のとおり、各取組の実施状況と、本プログラムの目標の達成状況について、定期的に評価を行う。その評価を踏まえて、その後の取組を実施する。最終年度にはプログラム全体の評価を行う。

（1）取組の実施状況の評価

実施する取組とその進捗状況について毎年度整理するとともに、成果や課題について共有・検討する。「大山隠岐国立公園保護管理レポート」として取組の状況や課題について整理し、次年度以降に実施する取組の検討に活かすとともに、情報を広く公開する。

（2）目標の達成状況に係る評価

２．３に掲げる目標の達成状況について、２．５に記載する指標を用いて評価を行う。評価は原則として毎年度実施する。

４．４　プログラムの改訂

本プログラムの内容については、取組の進捗状況や社会情勢を踏まえ、必要に応じて地域協議会において見直しを行う。

別紙１

大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会　設置要綱

（目的）
第１条　大山隠岐国立公園を、最大の魅力である美しい自然を活かした上質なツーリズムを提供する世界水準の旅行の目的地とするための、関係機関・団体の相互連携の下での取組の実施について協議を行うことを目的として、大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

（所掌事務）
第２条　協議会は、以下に掲げる事務を行う。
（１）「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2030」の実施に関する事項
（２）「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2030」の改訂に関する事項
（３）第１条の目的を達成するために必要と認められるその他の事項

（構成員）
第３条　協議会は、別表１に掲げる機関・団体等をもって構成する。
２　協議会は、必要に応じアドバイザーを招集することができる。

（会議）
第４条　会議は、必要に応じて事務局が招集する。
２　議事は、事務局において進行する。

（地域部会）
第５条　大山隠岐国立公園の各地域における具体的な事項を検討するため、必要に応じ地域部会を設置することができる。

（事務局）
第６条　協議会の事務局は、鳥取県生活環境部、島根県環境生活部、岡山県環境文化部及び中国四国環境局に置く。

（改正）
第７条　この要綱は、第３条に規定する協議会の構成員の発議により、協議会に出席した構成員の合意を得て、改正することができる。

（その他）
第８条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則　この要綱は、令和８年 10 月 26 日から施行する。

別表 1

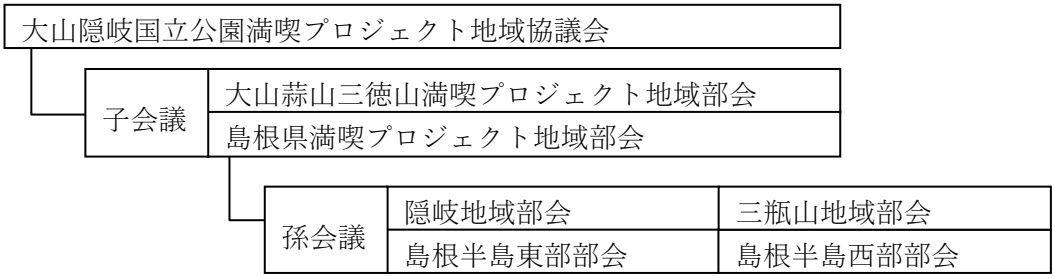
第 3 条第 1 項　構成員

構成員	
《国の機関》	
1	林野庁近畿中国森林管理局計画保全部長
2	国土交通省中国運輸局観光部長
3	国土交通省中国地方整備局企画部長
4	環境省中国四国環境局長
《地方自治体》	
5	鳥取県生活環境部長
6	鳥取県西部総合事務所長
7	島根県環境生活部長
8	島根県隠岐支庁長
9	岡山県環境文化部長
10	大山町長
11	松江市長
12	出雲市長
13	大田市長
14	隠岐の島町長
15	真庭市長
《民間機関・団体等》	
16	山陰インバウンド機構　代表理事
17	一般社団法人　中海・宍道湖・大山圏域観光局　代表理事
18	一般社団法人　隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会　事務局長
19	隠岐汽船株式会社　代表取締役
20	株式会社山陰合同銀行　地域振興部長

（敬称略）

（参考）地域部会の設置状況

設置要綱第 5 条に基づき、下図のとおり計 6 つの地域部会が置かれている。



別紙２

大山隠岐国立公園の区域を有する市町村一覧

＜鳥取県＞

倉吉市
三朝町
琴浦町
大山町
伯耆町
日野町
江府町

＜島根県＞

松江市
出雲市
大田市
飯南町
美郷町
海士町
西ノ島町
知夫村
隠岐の島町

＜岡山県＞

真庭市
新庄村

※５市 11 町２村、地方公共団体コード順